

HP Quality Center

ソフトウェア・バージョン : 10.00

インストール・ガイド

ドキュメント番号 : T7334-99000

ドキュメント発行日 : 2009 年 1 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース日 : 2009 年 1 月 (英語版)



利用条件

保証

HP の製品およびサービスの保証は、かかる製品およびサービスに付属する明示的な保証の声明において定められている保証に限ります。本ドキュメントの内容は、追加の保証を構成するものではありません。HP は、本ドキュメントに技術的な間違いまたは編集上の間違い、あるいは欠落があった場合でも責任を負わないものとします。

本ドキュメントに含まれる情報は、事前の予告なく変更されることがあります。

制限事項

本コンピュータ・ソフトウェアは、機密性があります。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効なライセンスが必要です。FAR 12.211 および 12.212 に従って、商用コンピュータ ソフトウェア、コンピュータ ソフトウェアのドキュメント、および商用アイテムの技術データは、HP の標準商用ライセンス条件に基づいて米国政府にライセンスされています。

サードパーティ Web サイト

HP は、補足情報の検索に役立つ外部サードパーティ Web サイトへのリンクを提供します。サイトの内容と利用の可否は予告なしに変更される場合があります。HP は、サイトの内容または利用の可否について、いかなる表明も保証も行いません。

著作権

© 1993 - 2009 Mercury Interactive Corporation, All rights reserved

商標

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Intel® および Pentium® Intel® は、米国およびその他の国における Intel Corporation またはその子会社の商標または登録商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows® および Windows XP® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

Oracle® は、カリフォルニア州レッドウッド市の Oracle Corporation の米国登録商標です。

Red Hat™ は、Red Hat, Inc. の登録商標です。

Unix® は、The Open Group の登録商標です。

文書の更新

本書のタイトル・ページには、次の識別情報が含まれています。

- ソフトウェアのバージョンを示すソフトウェア・バージョン番号
- ドキュメントが更新されるたびに更新されるドキュメント発行日
- 本バージョンのソフトウェアをリリースした日付を示す、ソフトウェア・リリース日付

最新のアップデートまたはドキュメントの最新版を使用していることを確認するには、http://ovweb.external.hp.com/lpe/doc_serv/ を参照します。

サポート

Mercury 製品のサポート

従来 Mercury が提供していた製品のサポート情報は、次の方法で入手できます。

- HP Software Services Integrator (SVI) パートナー (www.hp.com/managementsoftware/svi_partner_list) を通している場合は、SVI 代理店にお問い合わせください。
- 有効な HP ソフトウェア・サポート契約をお持ちの場合は、HP ソフトウェア・サポート・サイトを参照して、セルフソルブ技術情報検索を使用して技術的な質問に対する回答を検索できます。
- 従来 Mercury が提供していた製品のサポート・プロセスおよびツールの最新情報については、HP-Mercury Support Web サイト (<http://support.mercury.com>) (英語サイト) を参照してください。
- その他の質問については、HP の営業担当にお問い合わせください。

HP ソフトウェアのサポート

HP ソフトウェア・サポート Web サイトへは、www.hp.com/managementsoftware/services からアクセスできます。

HP ソフトウェアのオンライン・サポートでは、対話型の技術支援ツールに効率的にアクセスできます。サポートをご利用のお客様は、サポート・サイトを使うことで次のような利点があります。

- 参照したいナレッジ・ドキュメントの検索
- エンハンスメント要求およびサポート・ケースの登録とトラッキング
- ソフトウェア・パッチのダウンロード
- サポート契約の管理
- HP サポートの連絡先の検索
- 利用可能なサービスに関する情報の参照
- ソフトウェアの他のお客様とのディスカッションに参加
- ソフトウェアのトレーニングの調査および登録

ほとんどのサポート・エリアは、HP Passport ユーザとしての登録およびサインインが必要です。また多くは、サポート契約も必要です。アクセス・レベルの詳細情報については、www.hp.com/managementsoftware/access_level を参照してください。

HP Passport ID の登録を申請するには、www.managementsoftware.hp.com/passport-registration.html（英語サイト）にアクセスしてください。

目次

はじめに	9
本書の構成	9
文書ライブラリ	11
その他のオンライン・リソース	13
ドキュメントのアップデート	14
第 1 章：インストールの前に	15
Quality Center の技術について	16
インストール作業の流れ	19
Quality Center エディション	21
システム構成	22
インストール作業のチェックリスト	28
Quality Center サーバ側の要件	30
Quality Center クライアント側の要件	47
プロジェクトとデータベース・スキーマのアップグレード	50
テキスト検索の設定	55
第 2 章：Quality Center のインストール	57
Quality Center のインストールについて	57
クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント	58
Quality Center のインストール	62
サイレント・モードでの Quality Center のインストール	84
第 3 章：Quality Center Starter Edition のインストール	87
Quality Center Starter Edition のインストールについて	87
Quality Center Starter Edition のインストール	88
第 4 章：Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ	95
Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ	96
WebLogic 上にデプロイした Quality Center の手動による解除	97
第 5 章：Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ	99
Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ	100
WebSphere 上にデプロイした Quality Center の手動による解除	102

第 6 章：手動による JBoss と Apache の統合	103
手動による JBoss と Apache の統合について	103
JBoss と Apache の統合 (Windows)	104
JBoss と Apache の統合 (Windows 以外のプラットフォーム)	105
Apache と JBoss の統合設定ファイル	106
第 7 章：作業の開始	109
Quality Center プログラム・フォルダについて	109
Quality Center サービスの開始と停止	110
Quality Center の起動	112
第 8 章：Quality Center アドインのインストール	117
第 9 章：IIS の設定の確認	119
IIS アカウント設定	119
Quality Center 仮想ディレクトリの設定	121
第 10 章：Quality Center のカスタマイズ	123
第 11 章：JBoss のヒープ・メモリ・サイズおよびポートの変更	127
JBoss のヒープ・メモリ・サイズの変更	128
JBoss のポート番号の変更	131
第 12 章：Quality Center のアンインストール	133
Windows からの Quality Center のアンインストール	133
その他のプラットフォームからの Quality Center の アンインストール	134
ワークステーションからの Quality Center コンポーネントの アンインストール	135
付録 A: Quality Center のインストールに関する トラブルシューティング 137	
検証の無効化	138
インストール・ログ・ファイルの確認	139
Quality Center がすでにインストールされていると表示される場合	140
データベースの検証に失敗する場合	140
IIS サイトからの応答がない場合	142
JBoss が起動しない場合	143
以前のインストールに設定していたパラメータが使用される場合	145

はじめに

HP Quality Center へようこそ。Quality Center は、HP の Web ベースのアプリケーション・ライフサイクル管理ソリューションです。Quality Center によって、リリースの定義、要件の指定、テスト計画、テスト実行、不具合追跡など、アプリケーションのライフサイクル管理プロセスのあらゆる段階を体系化し、管理できます。

本書の構成

本書では、Quality Center のシステム要件とインストール・プロセスについて説明します。

本書は、以下の章で構成されています。

第 1 章 **インストールの前に**

製品の概要を紹介し、Quality Center をインストールするためのシステム構成について述べます。また、インストール・プロセスの開始前に完全に準備ができていることを確認できるように、インストール作業のチェックリストやその他の関連情報を示します。

第 2 章 **Quality Center のインストール**

Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition のインストール方法を説明します。

第 3 章 **Quality Center Starter Edition のインストール**

Quality Center Starter Edition のインストール方法を説明します。

第 4 章 **Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ**

WebLogic アプリケーション・サーバ上に手動で Quality Center をデプロイする方法を説明します。

第 5 章 **Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ**

WebSphere アプリケーション・サーバ上に手動で Quality Center をデプロイする方法を説明します。

第 6 章 **手動による JBoss と Apache の統合**

JBoss への要求がリダイレクトされるように Apache Web サーバを手動で設定する方法を説明します。

第 7 章 **作業の開始**

Quality Center プログラム・フォルダの内容、Quality Center サービスの起動と停止の方法、Quality Center へのログイン方法を説明します。

第 8 章 **Quality Center アドインのインストール**

HP ツールやサードパーティ・ツールとの Quality Center の統合および同期化ソリューションをインストールする方法を説明します。

第 9 章 **IIS の設定の確認**

IIS (Microsoft Internet Information Services) コンポーネントの設定の確認方法を説明します。

第 10 章 **Quality Center のカスタマイズ**

Quality Center モジュールの名前、さまざまなリンク、[ツール] メニュー、および [ヘルプ] メニューをカスタマイズする方法を説明します。

第 11 章 **JBoss のヒープ・メモリ・サイズおよびポートの変更**

JBoss アプリケーション・サーバの標準のヒープ・メモリ値およびポート番号を変更する方法を説明します。

第 12 章 Quality Center のアンインストール

サーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法、およびクライアント・アプリケーションをアンインストールする方法を説明します。

付録 A Quality Center のインストールに関するトラブルシューティング

Quality Center のインストールに関連する問題に対処する際のトラブルシューティングに役立つヒントを示します。

文書ライブラリ

文書ライブラリは、Quality Center の使用方法を説明するオンライン・ヘルプ・システムです。文書ライブラリには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ▶ Quality Center の [ヘルプ] メニューで [文書ライブラリ] をクリックし、文書ライブラリのホームページを開きます。このホームページでは、主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。
- ▶ Quality Center の [ヘルプ] メニューで [このページのヘルプ] をクリックして、現在のページを説明するトピックへの文書ライブラリを開きます。

文書ライブラリ・ガイド

文書ライブラリは、次のガイドとリファレンスで構成されており、オンライン、PDF 形式、またはその両方で提供されています。PDF の表示や印刷には、Adobe Reader を使用します。Adobe Reader は Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.com/jp/>) からダウンロードできます。

『はじめに』: 文書ライブラリの使用方法および編成方法について説明していません (オンラインで利用可能)。

『新機能』: 最新バージョンの Quality Center における新しい機能について説明しています (オンラインおよび PDF 形式で利用可能)。

Quality Center の [ヘルプ] メニューから [新機能] にアクセスすることもできます。また、[ヘルプ] > [製品の機能紹介ムービー] を選択して主な製品機能の短いデモ・ムービーを見ることもできます。

『最初にお読みください』: Quality Center に関する最新のお知らせと情報が含まれています。

Quality Center ガイド

『**HP Quality Center ユーザーズ・ガイド**』: Quality Center を使用してアプリケーションのライフサイクル管理プロセスのあらゆる段階を体系化し、実行する方法を説明しています。また、リリースの指定、要件定義、テスト計画、テスト実行、および不具合追跡を行う方法についても説明しています（オンラインおよび PDF 形式で利用可能）。

『**HP Quality Center Administrator's Guide**』 (英語版): 「サイト管理」機能を使用してプロジェクトを作成し保守する方法、および「プロジェクトのカスタマイズ」機能を使用してプロジェクトのカスタマイズを行う方法を説明しています（オンラインおよび PDF 形式で利用可能）。

『**HP Quality Center チュートリアル**』: Quality Center を使ってアプリケーション・テスト・プロセスを管理する方法について自分のペースで学べるガイドです（PDF 形式で利用可能）。

『**HP Quality Center インストール・ガイド**』: Quality Center をクラスタ環境のサーバ・マシンに、あるいはスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールする方法を説明しています（PDF 形式で利用可能）。

『**HP Quality Center アップグレード・ガイド**』: プロジェクトのアップグレード前に問題を検出し修復する方法を説明しています（PDF 形式で利用可能）。

『**HP Quality Center Database Best Practices Guide**』 (英語版): Quality Center をデータベース・サーバ上にデプロイするためのベスト・プラクティスを提供します。（PDF 形式で利用可能）。

Business Process Testing ガイド

『**HP Business Process Testing User's Guide**』 (英語版): Business Process Testing を使用して、ビジネス・プロセス・テストを作成する方法を説明しています（オンラインおよび PDF 形式で利用可能）。

『**HP Business Process Testing チュートリアル**』: Quality Center アプリケーションにおける Business Process Testing の基本について、自分のペースで学べるガイドです（PDF 形式で利用可能）。

API リファレンス

『**HP Quality Center Database Reference**』 (英語版): プロジェクト・データベースのすべてのテーブルとフィールドのオンライン・リファレンスを提供しています（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Open Test Architecture API Reference**』（英語版）：Quality Center の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスを提供しています。Quality Center のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して、ユーザ独自の設定管理ツール、不具合追跡ツール、および自社開発のテスト・ツールを Quality Center プロジェクトに統合できます（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Site Administration API Reference**』（英語版）：COM ベースのサイト管理 API 全体のオンライン・リファレンスです。サイト管理 API を使用して、アプリケーションを編成、管理し、Quality Center のユーザ、プロジェクト、ドメイン、接続およびサイトの設定パラメータを保守できます（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Entity Dependencies API Reference**』（英語版）：Quality Center エンティティ間の関係を管理するためのオンライン・リファレンスです。関係を管理する際に使われる Quality Center の COM ベースの API のサブセットと、データ・テーブルのサブセットをカバーしています。このリファレンスを使ってテスト・ツールと Quality Center を統合できます（オンラインで利用可能）。

『**HP Quality Center Custom Test Type Guide**』（英語版）：独自のテスト・ツールの作成および Quality Center 環境への統合について網羅的に説明するオンライン・ガイドです（オンラインで利用可能）。

その他のオンライン・リソース

Quality Center の [ヘルプ] メニューから、次のオンライン・リソースも使用できます。

[**トラブルシューティング & ナレッジ ベース**]：HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティングのページにアクセスします。このページで、セルフ・ソルブ技術情報を検索できます。[ヘルプ] > [**トラブルシューティング & ナレッジ ベース**] を選択します。この Web サイトの URL は <http://h20230.www2.hp.com/troubleshooting.jsp> です。

[**HP ソフトウェア・サポート**]：HP ソフトウェア・サポートの Web サイトにアクセスします。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、サポート要求の送信、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。

[ヘルプ] > [HP ソフトウェア・サポート] を選択します。Web サイトの URL は <http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport> です。

サポート・エリアの大部分において、HP パスポート・ユーザとしての登録と、サインインが必要になります。また、多くの場合サポート契約も必要になります。

アクセス・レベルの詳細については、下記の URL にアクセスしてください：
http://h20230.www2.hp.com/new_access_levels.jsp

HP パスポート・ユーザ ID を登録するには、下記の URL にアクセスしてください：
<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html>

[HP ホーム ページ]：HP のホームページにアクセスします。このサイトでは、HP ソフトウェア製品に関する最新情報をご覧になれます。たとえば、新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報が含まれます。[ヘルプ] > [HP ホームページ] を選択します。この Web サイトの URL は <http://www.hp.com/go/software> です。

[アドイン ページ]：HP Quality Center アドイン・ページを表示します。このページは、HP 製ツールやサードパーティ製ツールとの統合および同期化ソリューションを提供します。詳細については、『HP Quality Center インストール・ガイド』を参照してください。

ドキュメントのアップデート

HP ソフトウェアの製品ドキュメントは、常に更新されています。

最新の更新情報の確認や、使用しているドキュメントが最新版であるかどうかの確認を行うには、HP ソフトウェアの製品ドキュメント Web サイトを参照してください (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/manuals>)。

第1章

インストールの前に

本章では、インストール・プロセスの概要について説明し、Quality Center をインストールするための要件を指定します。

本章の内容

- ▶ Quality Center の技術について (16 ページ)
- ▶ インストール作業の流れ (19 ページ)
- ▶ Quality Center エディション (21 ページ)
- ▶ システム構成 (22 ページ)
- ▶ インストール作業のチェックリスト (28 ページ)
- ▶ Quality Center サーバ側の要件 (30 ページ)
- ▶ Quality Center クライアント側の要件 (47 ページ)
- ▶ プロジェクトとデータベース・スキーマのアップグレード (50 ページ)
- ▶ テキスト検索の設定 (55 ページ)

Quality Center の技術について

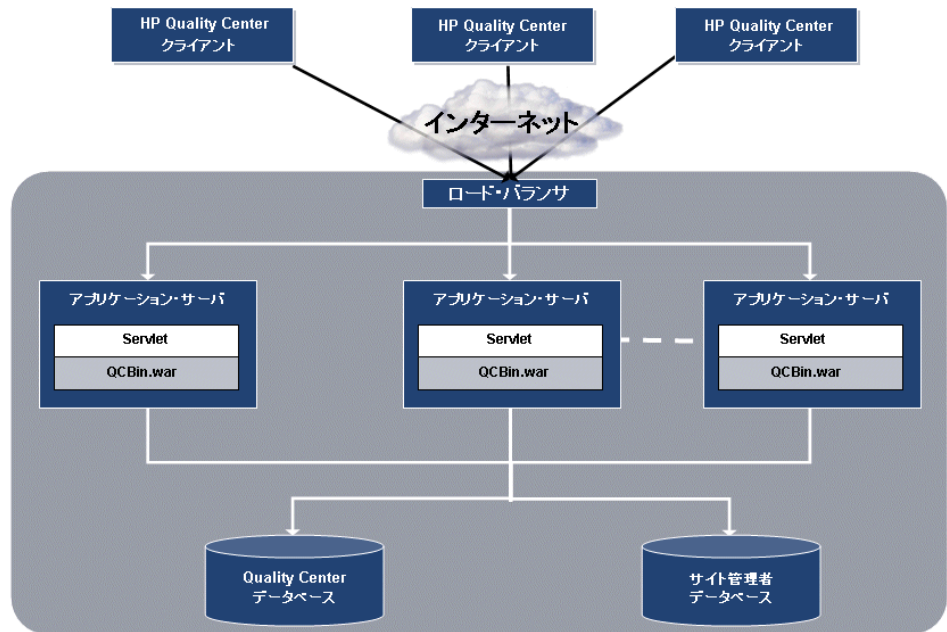
Quality Center は、Java 2, Enterprise Edition (J2EE) テクノロジーに基づいた、企業全体で利用できるアプリケーションです。J2EE テクノロジーは、エンタープライズ・アプリケーションの設計、開発、組み立て、およびデプロイメントのためのコンポーネント・ベースの手段を提供します。Quality Center では、J2EE フレームワークの範囲内でクラスタリングをサポートしています。**クラスタ**とは、あたかも単独のサーバであるかのように Quality Center を実行するアプリケーション・サーバの集合です。クラスタ内の各アプリケーション・サーバは、**ノード**、もしくは**クラスタ・ノード**と呼ばれます。

クラスタは、最大限のスケラビリティを確実に実現できるように、ミッション・クリティカルなサービスを提供します。クラスタ内では、ロード・バランシング技術を利用して、クライアントからの要求を複数のアプリケーション・サーバに分散させることで、任意の数のユーザに対応して規模を容易に拡大できるようにしています。サーバのクラスタは Windows, Linux, Solaris, AIX, および HP-UX ベースのプラットフォームで動作します。

Quality Center エディション：本項の内容の一部は、Quality Center Starter Edition ユーザには適用されません。詳細については、22 ページ「システム構成」を参照してください。

注：Quality Center をクラスタ・ノードにインストールするには、Quality Center High Availability オプションを購買契約に含める必要があります。詳細については、営業担当者にお問い合わせください。

次の図に、Quality Center クライアントの要求がクラスタ内でどのように転送されるのかを示します。



- ▶ **HP Quality Center クライアント**：ユーザが、クライアント・マシンから Quality Center またはサイト管理にログインすると、クライアント・コンポーネントがクライアント・マシンにダウンロードされます。Quality Center は、コンポーネント間のプロセス間通信の手段として COM（コンポーネント・オブジェクト・モデル）インタフェースを使用します。
- ▶ **インターネット**：クライアント要求は、HTTP プロトコルに埋め込まれてサーバに転送されます。
- ▶ **ロード・バランサ**：ロード・バランサを使用すると、クライアント要求はロード・バランサに転送され、クラスタ内のサーバの利用状況に応じて分散されます。
- ▶ **アプリケーション サーバ**：クライアント要求は、サーブレットから、アプリケーション・サーバに展開されている Quality Center アプリケーションに渡されます。Quality Center では、JBoss、WebLogic、および WebSphere をサポートしています。

デプロイされたアプリケーションには、Quality Center、サイト管理、および Web アプリケーション・アーカイブ・ファイル (WAR) としてパッケージ化された関連ファイルが含まれます。Quality Center からのクライアント要求は **qcbn.war** ファイルに渡されます。

JDBC (Java Database Connectivity) インタフェースは、アプリケーション・サーバとデータベースの間の通信に使用されます。

- ▶ **データベース** : Quality Center スキーマには、プロジェクト情報が格納されます。サイト管理スキーマには、ドメイン、プロジェクト、およびユーザ・データが格納されます。これらのスキーマは、Oracle または Microsoft SQL Server に作成することが可能です。データベース・サーバ上での Quality Center のデプロイのための詳細なガイドラインについては、『**Quality Center Database Best Practices Guide**』(英語版)を参照してください。

インストール作業の流れ

Quality Center は、次の手順でインストールします。



システム構成の確認

Quality Center をインストールする前に、サーバ・マシンおよびクライアント・マシンがハードウェアおよびソフトウェアの要件を満たしていることを確認します。Quality Center のシステム仕様を確認するには、22 ページ「システム構成」を参照してください。

システム仕様を確認するのに加え、Quality Center をサーバ・マシンにインストールするために必要なすべての情報を用意します（28 ページ「インストール作業のチェックリスト」を参照）。Quality Center のインストールと実行に必要な特権、権限、その他の情報については、30 ページ「Quality Center サーバ側の要件」および 47 ページ「Quality Center クライアント側の要件」を参照してください。

以前に作成したプロジェクトを使って作業するには、プロジェクトを最新版の Quality Center にアップグレードする必要があります。詳細については、50 ページ「プロジェクトとデータベース・スキーマのアップグレード」を参照してください。データベース・スキーマもアップグレードする必要があります。詳細については、53 ページ「既存スキーマのアップグレード」を参照してください。

Quality Center のインストール

Quality Center をサーバにインストールします。Quality Center Enterprise Edition と Quality Center Premier Edition は、次のプラットフォームにインストールできます：Windows, Solaris, Linux, AIX, HP-UX。詳細については、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

Quality Center Starter Edition のインストールの詳細については、第3章「Quality Center Starter Edition のインストール」を参照してください。

JBoss を使用している場合、Quality Center がアプリケーション・サーバに自動的にデプロイされます。WebLogic または WebSphere アプリケーション・サーバを使用する場合は、Quality Center を手動でデプロイする必要があります。詳細については、第4章「Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ」または第5章「Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ」を参照してください。

Quality Center を JBoss アプリケーション・サーバと Apache Web サーバの組み合わせで使用するには、要求が JBoss アプリケーション・サーバにリダイレクトされるよう手動で Apache Web サーバを設定する必要があります。詳細については、第6章「手動による JBoss と Apache の統合」を参照してください。

サーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法の詳細については、第12章「Quality Center のアンインストール」を参照してください。

Quality Center の起動

Quality Center のインストール後、Web ブラウザからこれを起動できます。詳細については、第7章「作業の開始」を参照してください。

Quality Center のカスタマイズと設定

次のように Quality Center のカスタマイズと設定を行うことができます。

- ▶ Quality Center アドインをインストールして既存の機能を拡張できます。詳細については、第8章「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。
- ▶ Quality Center モジュールの名前と、[ツール] メニューおよび [ヘルプ] メニューをカスタマイズできます。詳細については、第10章「Quality Center のカスタマイズ」を参照してください。

- ▶ Quality Center のアクティブなプロジェクト数やコンカレント・ユーザ・セッション数に変化があった場合は、JBoss アプリケーション・サーバのヒープ・メモリの値を変更できます。また、JBoss 標準設定のポート番号を変更することもできます。詳細については、第11章「JBoss のヒープ・メモリ・サイズおよびポートの変更」を参照してください。
- ▶ Windows に Quality Center をインストールした後で、IIS (Internet Information Server) コンポーネントに問題が生じた場合は、IIS の設定を確認する必要があります。詳細については、第9章「IIS の設定の確認」を参照してください。
- ▶ Quality Center のインストールに関する問題に対処するためのその他のヒントについては、付録 A 「Quality Center のインストールに関するトラブルシューティング」に示します。

Quality Center エディション

Quality Center は、Starter, Enterprise, Premier の3種類のエディションで提供されています。

- ▶ **Quality Center Starter Edition** : 最大5 コンカレント・ユーザの小さなリリースを管理するアプリケーション・チーム向けの既存の Quality Center エディションです。

Quality Center Starter Edition をインストールするには、第3章「Quality Center Starter Edition のインストール」を参照してください。

- ▶ **Quality Center Enterprise Edition** : 中～大規模のリリースを管理するアプリケーション・チーム向けの既存の Quality Center エディションです。以前の TestDirector for Quality Center です。

Quality Center Starter Edition をインストールするには、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

- ▶ **Quality Center Premier Edition** : エンタープライズ・リリースを管理する成熟した CoE (Center of Excellence) 組織向けの新しい Quality Center エディションです。

Quality Center Premier Edition をインストールするには、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

各エディションで利用可能な機能の詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

システム構成

本項では Quality Center サーバ・システムおよびクライアント・システムのインストールに必要なシステム構成について説明します。

注：最新の Quality Center システム構成については、
http://www.hp.com/jp/TDQC_SysReq を参照してください。

本項の内容

- ▶ Enterprise Edition および Premier Edition のサーバ・システム構成（22 ページ）
- ▶ Starter Edition のサーバ・システム構成（25 ページ）
- ▶ クライアントのシステム構成（25 ページ）
- ▶ Citrix の構成（27 ページ）
- ▶ VMware ESX の構成（27 ページ）

Enterprise Edition および Premier Edition のサーバ・システム構成

本項では、Windows, Linux, Solaris, AIX, HP-UX に Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition サーバをインストールするためのサーバ・システム構成について説明します。次の項目が含まれています：「サポートされている環境」、「推奨環境」、および「サーバ構成実装のためのガイドライン」。

サポートされている環境

Quality Center サーバのインストールのために、次のアプリケーションがサポートされています。これらのアプリケーションの任意の組み合わせを使用できます。最高のパフォーマンスを引き出し、問題解決を迅速に支援できるように、特定の組み合わせを使用することが推奨されます。詳細については、24 ページ「推奨環境」を参照してください。

オペレーティング・システム	32 ビット版または 64 ビット版 Windows Server 2003 (SP2) Windows Server 2008 64 ビット版 Sun Solaris 9 または 10 64 ビット版 AIX 5.3 Linux Red Hat 4.5 または 5 64 ビット版 Linux Suse 10 64 ビット版 HP-UX 11i v2 (PA-RISC) または v3 注 ：ローカライズ版の Quality Center は、Windows オペレーティング・システムでのみサポートされています。
アプリケーション・サーバ	JBoss 4.0.4 または 4.x WebLogic 9.2 または 10 WebSphere 6.1
データベース・サーバ	Oracle 9.2.0.6 または 10.2.0.3 Microsoft SQL 2005 (SP2)
Web サーバ	JBoss 4.0.4 または 4.x Apache 2.x IIS 6 WebLogic 9.x または 10.x IHS Server

推奨環境

次の表に、オペレーティング・システムごとに推奨される構成を示します。

オペレーティング・システム	アプリケーション・サーバ	データベース・サーバ	Web サーバ
64 ビット版 Windows Server 2003 (SP2)	JBoss 4.0.4	Microsoft SQL 2005 (SP2)	JBoss 4.0.4
64 ビット版 Sun Solaris 10	WebLogic 9.2	Oracle 10.2.0.3	Apache 2.2
64 ビット版 AIX 5.3	WebSphere 6.1	Oracle 10.2.0.3	IHS Server
64 ビット版 Linux Red Hat 4.5	WebLogic 9.2	Oracle 10.2.0.3	Apache 2.2
64 ビット版 HP-UX 11i v3	JBoss 4.0.4	Oracle 10.2.0.3	JBoss 4.0.4

サーバ構成実装のためのガイドライン

サーバ構成の実装にあたっては次のガイドラインを検討してください。

- ▶ データベース・サーバの設定に関する詳細については、『**HP Quality Center Database Best Practices Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ JBoss および WebLogic は、HTTPS で動作するように設定できます。JBoss の設定に関する詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM193181 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM193181>) を参照してください。WebLogic の設定に関する詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM201153 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM201153>) を参照してください。
- ▶ Linux, Solaris, AIX, HP-UX 環境の場合は、`uname -a` を実行し、サポート対象のカーネルを使用していることを確認してください。

Starter Edition のサーバ・システム構成

本項では、Quality Center Starter Edition サーバをインストールするためのサーバ・システム構成について説明します。

オペレーティング・システム	Windows XP (SP2)
データベース・サーバ	Microsoft SQL Server 2005 Express 注：インストール・プロセス中にインストールされます。サーバ・マシンに SQL Server がすでにインストールされている場合は、管理者名とパスワードを指定することによって、Quality Center にこれを使用するように指定できます。
アプリケーション・サーバと Web サーバ	JBoss 注：インストール・プロセス中にインストールされます。

クライアントのシステム構成

本項では、Quality Center クライアントをインストールするためのクライアント・システム構成について説明します。

CPU	Pentium IV
メモリ (RAM)	1 GB
空きディスク容量	1 GB
オペレーティング・システム	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 32 ビット版 Windows XP SP2 または SP3 (推奨) ▶ 32 ビット版 Windows Vista (SP1) ▶ 32 ビット版 Windows 2000 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Quality Center を HP 製の他のテスト・ツールと統合する場合は、クライアント・マシンの DCOM 権限を変更する必要があります。詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM118706 (http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM187086) を参照してください。 ▶ リモート・デスクトップを使用して Quality Center クライアントで作業できます。

<p>ブラウザ</p>	<p>Microsoft Internet Explorer 6 (SP1) または 7</p> <p>注: ActiveX など、ブラウザのプラグインに関する制限のあるお客様のために、Quality Center を Quality Center Explorer Add-in に読み込むことができます。アドインのダウンロードとインストールに関する詳細については、第 8 章「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。</p>
<p>Microsoft Word</p>	<p>ドキュメント・ジェネレータ、要件のリッチ・テキスト、リスクベース品質管理レポートは、お使いのマシンに Microsoft Word 2000, XP, 2003 SP3 (推奨), または 2007 RTM (推奨) がインストールされている場合のみ使用できます。</p>
<p>Microsoft Excel</p>	<p>Excel レポートおよびリスクベース品質管理レポートは、お使いのマシンに Microsoft Excel 2000, XP, 2003 SP3 (推奨), または 2007 RTM (推奨) がインストールされている場合のみ使用できます。</p>

注:

- ▶ Windows 2000 Server 上で Quality Center クライアントが動作しているマシンにターミナル・サーバを使用して接続する場合、表示の色数はダウングレードされます。これは、Windows 2000 Server の制限によりターミナル・サーバ・クライアントのカラー・パレットが 256 色に制限されるためです。多くの色数を使用できるようにするには、MetaFrame をインストールして Windows 2000 ターミナル・サーバに ICA プロトコルをインストールするか、Windows 2003 Server にアップグレードする必要があります。
- ▶ リモート配布や大量配布のメカニズムを使用するお客様は、HP Quality Center アドイン・ページで **[HP Quality Center クライアント側セットアップ]** を選択することによって Quality Center クライアントをインストールできます。アドインのインストールの詳細については、第 8 章「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。クライアント側セットアップを使用したクライアントのインストールに関する詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM523641 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM523641>) を参照してください。

Citrix の構成

Citrix で Quality Center を実行するには、次の構成が必要です。

Citrix クライアント	次のオペレーティング・システムで動作する Program Neighborhood バージョン 8 ▶ Windows 2000 Server/Professional (SP4) ▶ Windows XP Professional/Home Edition (SP4)
Quality Center サーバ	すべての環境をサポート

Citrix の設定に関する詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM191013

(<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM191013>) を参照してください。

VMware ESX の構成

Quality Center は VMware ESX 3.5 Server 上にデプロイできます。仮想マシンごとのシステム構成は、Quality Center サーバ・システム構成と同じです。詳細については、22 ページ「システム構成」を参照してください。

インストール作業のチェックリスト

お使いのサーバ・マシンに Quality Center をインストールする前に、次のチェックリストの見直しと確認を行います。チェックリストは、インストール・プロセス中に指定しなければならない情報をまとめたものです。権限や特権など、インストール時の設定に関する詳細情報については、30 ページ「Quality Center サーバ側の要件」を参照してください。

確認	必要な情報
インストールするマシン	<ul style="list-style-type: none"> ▶ OS のバージョン ▶ CPU のタイプ ▶ 空きディスク容量 ▶ 空きメモリ容量 <p>情報の確認方法</p> <p>サポートされている OS のバージョン一覧については、22 ページ「システム構成」を参照してください。</p>
ライセンス・キー	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ライセンス・ファイル ▶ メンテナンス・キー <p>情報の確認方法</p> <p>ライセンス・ファイルは電子メールで送付されています。メンテナンス・キーは製品の箱に表示されています。</p>
クラスタの情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ クラスタを使用するかどうか ▶ クラスタを構成するホスト
アプリケーション・サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サーバのタイプ (JBoss, WebLogic または WebSphere) ▶ サーバのバージョン <p>JBoss を使用する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ポート番号 <p>JBoss を Windows マシンのサービスとして実行する場合</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ JBoss サービスのユーザ名 ▶ JBoss サービスのユーザ・パスワード ▶ JBoss サービスのユーザ・ドメイン

確認	必要な情報
Web サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サーバのタイプ (IIS または JBoss) IIS を使用する場合 <ul style="list-style-type: none"> ▶ IIS のバージョン ▶ Web サイト
メール・サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サーバの種類 ▶ サーバ・ホスト
デモ・プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ▶ デモ・プロジェクトが必要かどうか
データベース・サーバ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ データベースのタイプ ▶ データベースのバージョン ▶ データベース・サーバ名 ▶ データベース管理者のユーザ名 ▶ データベース管理者のユーザ・パスワード ▶ データベース・ポート Oracle を使用する場合 <ul style="list-style-type: none"> ▶ データベース SID ▶ 標準の表領域 ▶ 一時的な表領域
サイト管理	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サイト管理者のユーザ名 ▶ サイト管理者のパスワード
以前にインストール済みの Quality Center	既存のサイト管理スキーマがある場合は、既存バージョンに関する次の情報を用意してください。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ Quality Center のバージョン ▶ Quality Center のホスト ▶ 当該スキーマを新バージョンで使用するかどうか ▶ データベース・サーバ名 ▶ データベース管理者のユーザ名 ▶ データベース管理者のパスワード ▶ サイト管理者データベースのスキーマ名 ▶ サイト管理者データベースのスキーマ・パスワード ▶ リポジトリ・フォルダ
リポジトリ	<ul style="list-style-type: none"> ▶ リポジトリ・フォルダ

Quality Center サーバ側の要件

サーバ・マシンに Quality Center をインストールするには、次の要件を満たしている必要があります。

✓	要件	ページ
	システム構成	30
	Quality Center のインストールに必要な権限	30
	ライセンス・ファイルおよびメンテナンス・キー	33
	クラスタリングの設定	33
	アプリケーション・サーバの情報	34
	Web サーバの情報	35
	Quality Center デモ・プロジェクトおよび Mercury Tours	36
	メール・サーバの情報	36
	Oracle のデータベース要件	36
	Microsoft SQL のデータベース要件	42
	Quality Center サイト管理のログイン資格情報	46
	Quality Center リポジトリ・パス	46

Quality Center サーバのインストール作業のチェックリストについては、28 ページ「インストール作業のチェックリスト」を参照してください。

システム構成

サーバ・マシンが Quality Center のシステム構成を満たしていることを確認してください。システム構成およびサポートされている構成の詳細については、22 ページ「システム構成」を参照してください。

Quality Center のインストールに必要な権限

次のとおり、Windows, Solaris, Linux, AIX または HP-UX サーバ・マシンに Quality Center をインストールするために必要な権限を持っていることを確認してください。

Windows 上のインストール

Windows 上にインストールするには、管理者権限を持ったローカルまたはドメイン・ユーザとしてログオンしている必要があります。Quality Center のインストールを実行するログオン・ユーザの名前にシャープ記号 (#) が含まれていてはなりません。

注：ローカル・ユーザとしてログオンし、リポジトリがリモート・マシン上にある場合は、共有リポジトリ・ディレクトリに対するすべての読み書き権限が必要です。

ファイル・システムについて、次の権限が必要です。

- ▶ Quality Center をインストールするディレクトリ以下のすべてのファイルおよびディレクトリに対する完全な読み書き権限。インストール・ディレクトリのパスは、インストール作業時にユーザが指定します。標準設定では、Quality Center のインストール・ファイルは **C:\Program Files\HP\Quality Center** に書き込まれます。
- ▶ サイト管理および Quality Center のディレクトリを含んだ **リポジトリ・ディレクトリ** に対する完全な読み書き権限。リポジトリのパスは、インストール作業時にユーザが指定します。標準設定では、このパスは Quality Center のインストール・ディレクトリ内にあります。リポジトリの詳細については、『**HP Quality Center Administrator's Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ システム・ルート・ディレクトリ (**%systemroot%**) に対するすべての読み書き権限。インストーラ・プログラムにより、システム・ルート・ディレクトリの **vpd.properties** ファイルに製品情報が書き込まれます。この権限がなくても Quality Center はインストールできますが、パッチをインストールすることはできません。
- ▶ 一時ディレクトリ (**%TEMP%** または **%TMP%**) に対するすべての読み書き権限。このディレクトリには、インストーラ・プログラムによってインストール・ファイルおよびログ・ファイルが書き込まれます。このディレクトリでインストールを実行するために 500 MB 以上の空き容量があることを確認してください。

次のレジストリ・キー権限が必要です。

- ▶ **HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Mercury Interactive** の下のすべてのキーに対する完全な読み書き権限。

Solaris, Linux, AIX, HP-UX 上のインストール

Solaris, Linux, AIX または HP-UX 上にインストールするには、次のファイル・システム権限が必要です。

- ▶ **Quality Center** をインストールするディレクトリ以下のすべてのファイルおよびディレクトリに対する完全な読み書き権限。標準設定では、**Quality Center** のインストール・ファイルは **/opt/HP/QualityCenter** に書き込まれます。**/opt** に対して必要な権限を持っていない場合も、ほかのフォルダに **Quality Center** をインストールすることは可能です。
- ▶ サイト管理および **Quality Center** のディレクトリを含んだリポジトリ・ディレクトリに対する完全な読み書き権限。リポジトリのパスは、インストール作業時にユーザが指定します。標準設定では、このパスは **Quality Center** のインストール・ディレクトリ内にあります。リポジトリの詳細については、『**HP Quality Center Administrator's Guide**』（英語版）を参照してください。
- ▶ ユーザ・ホーム・ディレクトリ (~) に対するすべての読み書き権限。インストーラ・プログラムにより、ユーザ・ホーム・ディレクトリに製品情報 (**vpd.properties** ファイル) およびインストール・ログ・ファイルが書き込まれます。通常、ユーザ・ホーム・ディレクトリは **/home/ <インストーラの実行ユーザ名>** にあります。この権限がなくても **Quality Center** はインストールできますが、**Quality Center** のアンインストールやパッチのインストールはできません。
- ▶ **tmp** ディレクトリに対するすべての読み書き権限。一時ディレクトリには、インストーラ・プログラムによってソース・ファイル、**JVM** およびログ・ファイルが書き込まれます。通常、このディレクトリの場所は **/tmp/HP** または **/var/tmp/HP** です。このディレクトリでインストールを実行するために **500 MB** 以上の空き容量があることを確認してください。

ライセンス・ファイルおよびメンテナンス・キー

Quality Center のライセンス・ファイルとメンテナンス・キーがあることを確認してください。

- ▶ ライセンス・ファイルのパスを指定する必要があります。ライセンス・ファイルは電子メールで送付され、ファイル名には標準で **.license** という拡張子が付いています。有効なライセンス・ファイルがない場合は、HP ソフトウェア・サポート Web サイト (<http://www.hp.com/go/hpsoftwaresupport>) にアクセスし、[ライセンスとパスワード] リンクをクリックして、Quality Center ライセンス・キーを要請できます。
- ▶ メンテナンス・キーは、Quality Center 購入時の製品パッケージに付属していません。このフィールドは必須ではありません。

クラスタリングの設定

Quality Center を単一ノードにインストールするか、またはクラスタとしてインストールするかを確認してください（システム管理者にお問い合わせください）。クラスタ・ノードの詳細については、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

クラスタ・ノードに Quality Center をインストールする場合は、インストールを開始する最初のノードとして使用するマシンと、使用するマシンの台数を確認してください。これらは、ユーザ数と可用性を考慮して決定されます。追加ノードに Quality Center をインストールする際には、すべてのノードに同じバージョンの Quality Center をインストールし、最初のノードで指定したのと同じリポジトリおよびデータベース詳細情報を入力します。

注： Quality Center をクラスタ・ノードにインストールするには、Quality Center High Availability オプションを購買契約に含める必要があります。詳細については、営業担当者にお問い合わせください。

アプリケーション・サーバの情報

使用するアプリケーション・サーバの種類を確認してください。JBoss, WebLogic, WebSphere を使用できます。

Quality Center Starter Edition : JBoss サーバのみ使用できます。

JBoss を使用する場合は、インストール・プロセスの完了時に Quality Center が自動的にデプロイされます。

WebLogic または WebSphere アプリケーション・サーバを使用する場合は、Quality Center のインストール後、Quality Center を手動でデプロイする必要があります。手動によるデプロイの詳細については、95 ページ「Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ」および 99 ページ「Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ」を参照してください。

JBoss アプリケーション・サーバ

JBoss アプリケーション・サーバを使用する場合は、次の点を確認してください。

- ▶ Windows 版の JBoss を使用する場合は、JBoss をサービスとして実行するように設定されるユーザ・アカウントと、Quality Center のインストールに使用するユーザ・アカウントが同じであることを確認してください。当該ユーザには、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」で説明されているとおり、Quality Center サーバ・マシンに対するすべての管理者特権が必要です。
- ▶ Solaris, Linux, AIX または HP-UX 上で JBoss を使用する場合は、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」で説明されているとおり、JBoss の実行に必要なすべての制御権限をユーザが持っていることを確認してください。
- ▶ JBoss アプリケーション・サーバのヒープ・メモリ・サイズが十分であることを確認してください（標準設定では最大 1024 MB）。ただし、最大メモリ（RAM）サイズを超える JBoss ヒープ・サイズを設定することはできません。JBoss メモリ・ヒープ・サイズは、インストール作業中に [JBoss 詳細オプション] ダイアログ・ボックスから変更できます。インストール後にヒープ・サイズを変更する方法の詳細については、127 ページ「JBoss のヒープ・メモリ・サイズおよびポートの変更」を参照してください。
- ▶ 標準の JBoss ポート（8080）が予約済みまたは使用中の状態になっていないことを確認してください。JBoss ポートは、インストール作業中に [JBoss 詳細オプション] ダイアログ・ボックスから変更できます。インストール後にポートを変更する方法の詳細については、131 ページ「JBoss のポート番号の変更」を参照してください。

- ▶ 同じマシン上にある Quality Center の以前のバージョンからアップグレードする場合は、以前にローカル・ネットワークで JBoss をサービスとして実行するよう設定したのと同じ Windows ユーザ名、パスワードおよびドメインを使用する必要があります。異なるマシンからアップグレードする場合は、共有リポジトリへのアクセス権限がある任意のユーザを使用できます。

WebLogic/WebSphere アプリケーション・サーバ

WebLogic/WebSphere アプリケーション・サーバを使用する場合は、次の点を確認してください。

- ▶ Quality Center のインストールと実行に使用するユーザ・アカウントに、Quality Center のインストール・ディレクトリに対するすべての権限があること。
- ▶ 以前のバージョンの Quality Center からアップグレードしている場合は、Quality Center のインストールと実行に使用するユーザ・アカウントに、既存の Quality Center リポジトリ・ディレクトリに対するすべての権限があること。

Web サーバの情報

次の点を確認および検討してください。

- ▶ JBoss アプリケーション・サーバを使用する場合は、インストール時に JBoss を IIS Web サーバまたは JBoss Web サーバと統合できます。
Quality Center Starter Edition : JBoss サーバのみ使用できます。
- ▶ JBoss 以外のアプリケーション・サーバを使用する場合や、JBoss を Apache Web サーバと組み合わせて使用する場合は、インストール後に Web サーバを手動でデプロイする必要があります。
- ▶ Apache Web サーバを使用し、Quality Center を Apache と統合する場合は、要求が JBoss にリダイレクトされるように手動で Apache Web サーバを設定できます。これに適応した Apache 構成ファイルおよび統合ファイルが、Quality Center のインストール DVD に収録されています。Quality Center を Apache と統合する方法の詳細については、第6章「手動による JBoss と Apache の統合」を参照してください。

Quality Center デモ・プロジェクトおよび Mercury Tours

次の Quality Center 追加コンポーネントをインストールするかどうかを確認してください。

- ▶ **Quality Center デモ・プロジェクト** : Quality Center を初めて使用する際の学習に役立ちます。HP Quality Center チュートリアルを使用するには、デモ・プロジェクトをインストールする必要があります。
- ▶ **Mercury Tours** : サンプルの Web ベースの旅行予約アプリケーションです。HP Quality Center チュートリアルを実行するにはこれをインストールする必要があります。

メール・サーバの情報

使用するメール・サーバの種類を確認してください。詳細については、システム管理者にお問い合わせください。SMTP サーバを使用する場合は、その SMTP サーバの名前が必要です。指定したメール・サーバ名が有効であるかと、そのメール・サーバが動作しているかがインストーラによりチェックされます。

Oracle のデータベース要件

Oracle データベースに関する次の情報が必要です。

データベースのタイプおよびバージョン	使用しているデータベースのタイプおよびバージョンを Quality Center がサポートしていることを確認してください。サポート対象データベースの一覧については、22 ページ「システム構成」を参照してください。
データベース・サーバ名	データベース・サーバの名前を確認してください。
データベース・ユーザの権限	Oracle データベース・サーバ上に Quality Center をインストールするために必要なデータベース権限を持っていることを確認してください。必要な権限の一覧については、38 ページ「Oracle データベースに Quality Center をインストールするためのユーザ権限」を参照してください。

データベース・スキーマ名およびパスワード

- ▶ 標準設定のサイト管理データベース・スキーマ名は `qcsiteadmin_db` です。スキーマの名前を変更する必要がある場合は、[データベース サーバの詳細設定] ダイアログ・ボックスで変更できます。詳細については、75 ページの手順 21 を参照してください。
- ▶ データベース・スキーマのアクセスに使用する Quality Center ユーザ・パスワードは独自に作成できます。
- ▶ 既存のデータベース・スキーマがある場合は、次の操作を実行する必要があるか確認してください。
 - ▶ 既存のスキーマをアップグレードし、すべてのユーザを Quality Center 10.00 に切り替える。
 - ▶ 既存のスキーマのコピーを作成し、そのコピーをアップグレードする。この場合、Quality Center 10.00 と以前のバージョンの Quality Center を同時に併用できます（このオプションをお勧めします）。
- ▶ 既存のデータベース・スキーマ上に Quality Center をインストールするには（第2 ノードまたはアップグレード）、次の情報が必要です。
 - ▶ データベース・スキーマ名と、データベース・サーバに Quality Center をインストールするために必要なデータベース管理者権限。
 - ▶ 既存リポジトリに対するすべての読み書き権限（30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」を参照）。
 - ▶ 既存のサイト管理ユーザを使用する場合は、以前のバージョンの Quality Center と同じパスワード（46 ページ「Quality Center サイト管理のログイン資格情報」を参照）。
 - ▶ 以前のサイト管理スキーマのリポジトリ・パスに Quality Center サーバがアクセスできる必要があります。
 - ▶ 以前のサイト管理スキーマのリポジトリ・パスに対して Quality Center ユーザが完全な読み書き権限を持っている必要があります。

<p>データベース表領域の名前およびサイズ</p>	<ul style="list-style-type: none">▶ データベース・サーバの名前と、そのサーバに対する接続を確認してください。データベース・サーバのマシン名がDNSで解決されるかどうか ping で確認してください。▶ 表領域名（標準設定および一時）と、Quality Center スキーマを格納する最小限の表領域サイズを確認してください。Quality Center のインストールで表領域サイズが不足するのを避けるために、標準の保管場所には少なくとも 60 MB、一時保管場所には 30 MB の空き容量を確保しておくことをお勧めします。▶ 表領域がロックされていないことを確認してください。
----------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

Oracle データベースに Quality Center をインストールするためのユーザ権限

Oracle データベース・サーバに Quality Center をインストールするには、インストールを実行するデータベース・ユーザが、該当する管理タスクを Oracle で実行する権限を持っている必要があります。必要なタスクは、Quality Center プロジェクト・ユーザ・スキーマの作成、プロジェクト間でのデータ・コピー、および、特定の表領域に十分な容量があるかどうかのチェックです。

Oracle system ユーザが存在する場合は、このユーザを使用して Quality Center をインストールできます。セキュリティ上の理由から Oracle system ユーザを使用できない場合は、Quality Center のインストールに必要な特定の権限を持つ Quality Center データベース管理用のユーザ（たとえば、qc_admin_db）をデータベース管理者が作成することをお勧めします。

データベース管理者が Quality Center データベース管理用ユーザを作成する際には、インストール DVD の **¥utilities¥databases¥scripts** ディレクトリに収録されているサンプル・スクリプト **qc_admin_db__oracle.sql** を使用できます。このスクリプトは、データベースに必要な特権付与の推奨設定を使用して Quality Center データベース管理用ユーザを作成するものです。データベース管理者がステージング・データベース・サーバ上でこのスクリプトを実行し、ユーザを作成してください。

Quality Center データベース管理用ユーザに必要な特権の推奨設定は次のとおりです。表の末尾に、これらの特権に関する補足説明を示します。

特権	説明
CREATE SESSION WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	Quality Center は、Quality Center データベース管理用ユーザとしてデータベースに接続するためにこの特権を使用します。
CREATE USER	新しい Quality Center プロジェクトを作成する際、新しいプロジェクト・ユーザ・スキーマを作成するために必要です。
DROP USER	Quality Center プロジェクトを削除する際は、データベース・サーバからデータベース・スキーマを削除する操作が Quality Center により試みられます。特権不足エラーが発生した場合、そのエラーは無視され、データベース管理者に連絡してデータベース・ユーザ・スキーマを削除（ドロップ）することをユーザに求めるメッセージが表示されます。
CREATE TABLE WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	新規作成する Quality Center プロジェクト・ユーザ・スキーマにこの権限を付与するために必要です。
CREATE VIEW WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	Quality Center プロジェクト用のビューを作成するために必要です。
CREATE TRIGGER WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	Quality Center プロジェクト用のトリガを作成するために必要です。Quality Center は、特定の表に対する変更履歴を収集するためにトリガを使用します。
CREATE SEQUENCE WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	Quality Center プロジェクト用のシーケンスを作成するために必要です。
CREATE PROCEDURE WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	Quality Center プロジェクト用のストアド・パッケージを作成するために必要です。Quality Center は、特定の表に対する変更履歴を収集するためにストアド・パッケージを使用します。
CTXAPP Role WITH ADMIN OPTION ⁽¹⁾	Quality Center で Oracle のテキスト検索機能を使用できるようにします。このロールは、Oracle のテキスト検索コンポーネントがインストールされ、当該データベース・サーバで有効になっている場合にのみ存在します。

特権	説明
SELECT ON DBA_FREE_SPACE (2)	新しいサイト管理用データベース・スキーマまたは新しいプロジェクトの作成に先立って、データベース・サーバの空き容量をチェックするために必要です。
SELECT ON SYS.DBA_TABLESPACES (2)	新しいサイト管理用データベース・スキーマまたは新しいプロジェクトの作成に先立って、データベース・サーバに存在する表領域のリストを取得するために必要です。
SELECT ON SYS.DBA_USERS (2)	特定のデータベース・プロジェクト・ユーザが存在するかどうか確認するために必要です。たとえば、新しい Quality Center プロジェクトを作成する前に Oracle CTXSYS ユーザの存在を確認することが必要な場合があります。
SELECT ON SYS.DBA_REGISTRY (2)	データベース・サーバにテキスト検索コンポーネントがインストールされているかどうかを確認するために必要です。
SELECT ON SYS.DBA_ROLES (2)	データベース・サーバにテキスト検索ロール (CTXAPP) がインストールされているかどうかを確認するために必要です。
SELECT ANY TABLE WITH ADMIN OPTION (1) および INSERT ANY TABLE	コピーしてアップグレードする方法でのインストール時にサイト管理スキーマをアップグレードするためのさまざまな管理操作を実行するために必要です。また、プロジェクトのコピーでソース・データベース・サーバとターゲット・データベース・サーバが同じ場合のパフォーマンスを向上するために必要です。
<p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ (1) Quality Center データベース管理用ユーザは、管理オプション付き (WITH ADMIN OPTION) の特権を持っている必要があります。 ▶ (2) SELECT ON SYS 特権は、表の所有者が直接与えるか、データベース・アプリケーション・ロールを介して与えることができます。このロールを Quality Center データベース管理用ユーザに付与すると、それらの特権を毎回与える必要がなくなります。このロールには QC_SELECT_ON_SYS_OBJECTS という名前を付けることが推奨されます。このロールの作成には、インストール DVD の ¥utilities¥databases¥scripts ディレクトリに収録されているサンプル・スクリプト qc_sys_db__oracle.sql を使用できます。このスクリプトは、qc_admin_db__oracle.sql スクリプトよりも前に実行する必要があります。 	

新しいプロジェクトの作成または既存プロジェクトの復元を実行する際、Quality Center ではプロジェクト・ユーザ・スキーマが作成されます。このユーザ・スキーマは、当該プロジェクトでデータの格納と取得に使用するすべての表をホストするものです。Quality Center のプロジェクト・ユーザ・スキーマに必要な特権は次のとおりです。

プロジェクト・ユーザ・スキーマの特権	説明
QUOTA UNLIMITED ON <標準の表領域>	Quality Center プロジェクト・ユーザ・スキーマに所有されるデータベース・オブジェクトを作成するために必要です。この要件により、ユーザは標準の表領域に表を作成できます。 UNLIMITED TABLESPACE システム特権では、 SYSTEM 表領域も含めすべての表領域に表を作成するシステム特権をユーザに与えていましたが、それがこの要件に置き換わりました。
CREATE SESSION	Quality Center では、この特権を使用してデータベース・ユーザ・スキーマに接続し、必要な操作を実行します。たとえば、表などのデータベース・オブジェクトの作成や、そうしたオブジェクトに対するデータの挿入、取得および削除などをこれによって行います。
<ul style="list-style-type: none"> ▶ CREATE TABLE ▶ CREATE VIEW ▶ CREATE TRIGGER ▶ CREATE SEQUENCE ▶ CREATE PROCEDURE ▶ CTXAPP Role 	これらの特権の説明については、39 ページにある Quality Center データベース管理用ユーザに必要な特権の一覧表を参照してください。

ヒント：インストール DVD には、Quality Center データベース・プロジェクト・ユーザ・スキーマに必要な権限の推奨設定を記述したサンプル・スクリプトが収録されています。これは情報のみを示すものであり、実行する必要はありません。ファイルの場所は

¥utilities¥databases¥scripts¥qc_project_db___oracle.sql です。

Microsoft SQL のデータベース要件

Microsoft SQL データベースに関する次の情報が必要です。

データベースの タイプおよび バージョン	<ul style="list-style-type: none">▶ 使用しているデータベースのタイプおよびバージョンを Quality Center がサポートしていることを確認してください。サポート対象データベースの一覧については、22 ページ「システム構成」を参照してください。▶ データベース・サーバの認証の種類として、Windows または Microsoft SQL Server 認証のいずれを使用するかを確認してください。▶ Microsoft SQL Server の Windows 認証を使用する場合は、データベースにログインできることを確認してください。プロジェクトを Quality Center 10.00 にアップグレードする場合は、以前に使用していたのと同じ Microsoft SQL Server 認証の種類を使用する必要があります。
データベース・ サーバ名	データベース・サーバの名前を確認してください。
データベース・ ユーザの権限	Microsoft SQL データベース・サーバ上に Quality Center をインストールするために必要なデータベース権限（Microsoft SQL Server の Windows 認証には該当しません）を持っていることを確認してください。必要な権限の一覧については、44 ページ「Microsoft SQL Server データベースに Quality Center をインストールするためのユーザ権限」を参照してください。

データベース・スキーマ名およびパスワード

- ▶ 標準設定のサイト管理データベース・スキーマ名は `qcsiteadmin_db` です。スキーマの名前を変更する必要がある場合は、[データベース サーバの詳細設定] ダイアログ・ボックスで変更できます。詳細については、75 ページの手順 21 を参照してください。
- ▶ データベース・スキーマのアクセスに使用する Quality Center ユーザ・パスワードは独自に作成できます。
- ▶ 既存のデータベース・スキーマがある場合は、次の操作を実行する必要があるか確認してください。
 - ▶ 既存のスキーマをアップグレードし、すべてのユーザを Quality Center 10.00 に切り替える。
 - ▶ 既存のスキーマのコピーを作成し、そのコピーをアップグレードする。この場合、Quality Center 10.00 と以前のバージョンの Quality Center を同時に併用できます（このオプションをお勧めします）。
- ▶ 既存のデータベース・スキーマ上に Quality Center をインストールするには（第2 ノードまたはアップグレード）、次の情報が必要です。
 - ▶ データベース・スキーマ名と、データベース・サーバに Quality Center をインストールするために必要なデータベース管理者権限。
 - ▶ 既存リポジトリに対するすべての読み書き権限（30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」を参照）。
 - ▶ 既存のサイト管理ユーザを使用する場合は、以前のバージョンの Quality Center と同じパスワードを使用する必要があります（46 ページ「Quality Center サイト管理のログイン資格情報」を参照）。

Microsoft SQL Server データベースに Quality Center をインストールするためのユーザ権限

Microsoft SQL データベース・サーバに Quality Center をインストールするには、インストールを実行するデータベース・ユーザが、該当する管理タスクを SQL で実行する権限を持っている必要があります。

SQL sa ユーザが存在する場合は、このユーザを使用して Quality Center をインストールできます。セキュリティ上の理由から SQL sa ユーザを使用できない場合は、Quality Center のインストールに必要な特定の特権を持つ Quality Center データベース管理用のユーザ（たとえば、td_db_admin）をデータベース管理者が作成することをお勧めします。

td_db_admin ユーザには、**Database Creators** ロールが付与されている必要があります。また、td_db_admin ユーザに **Security Administrators** ロールを付与することもできます。これにより、データベース管理用ユーザは、Quality Center の実行に必要な特権のみを持つ td ユーザを作成できます。別の方法として、Quality Center をインストールする前に td ユーザを作成することもできます。td ユーザを作成するには、次の手順 1～3 に従って操作し、ユーザ名として「td」を入力します。td ユーザには db_ddladmin ロールが割り当てられる必要があります。この td ユーザにはそれ以外のサーバ・ロールが何も付与されていないことが重要です。

Microsoft SQL Server 2005 上に Quality Center データベース管理用ユーザを作成するには、次の手順を実行します。

- 1 **SQL Server Management Studio** を開きます。
- 2 [オブジェクトエクスプローラ] ウィンドウで、Quality Center データベース・サーバの下の [セキュリティ] フォルダを展開します。
- 3 [ログイン] を右クリックして [新しいログイン] を選択します。
- 4 ユーザ名として「td_db_admin」を入力し、認証の種類を選択します（必要な場合はパスワードを入力します）。
- 5 [サーバー ロール] タブをクリックし、[dbcreator] オプションを選択します。
- 6 [OK] をクリックします。

Quality Center データベース管理用ユーザ (SQL Server 認証) をテストするには、次の SQL 文を実行します。

- ▶ マスタ・データベースの sysdatabases 表に対する select の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
SELECT name FROM sysdatabases where name= <データベース名>
```

- ▶ データベース作成の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
CREATE DATABASE <データベース名> -- すでに存在するデータベース名は不可
```

- ▶ データベース削除の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
DROP DATABASE <データベース名> -- 存在しないデータベース名は不可
```

- ▶ syslogins に対する select の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
SELECT COUNT(*) FROM master..syslogins WHERE name= <データベース所有者名>
```

注 : dbOwnerName は **td** に設定する必要があります。

Quality Center データベース管理用ユーザ (Windows 認証) をテストするには、次の SQL 文を実行します。

- ▶ データベース・コンテキスト変更の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
USE <データベース名>
```

- ▶ データベース作成の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
CREATE DATABASE <データベース名> -- すでに存在するデータベース名は不可
```

- ▶ syslogins に対する select の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
SELECT COUNT(*) FROM master..syslogins WHERE name=' <データベース所有者名> '
```

- ▶ sysusers に対する select の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
SELECT COUNT(*) FROM master..sysusers WHERE name=' <データベース所有者名> '
```

- ▶ td ユーザに対する grant all の権限を確認するには、次の SQL 文を実行します。

```
GRANT ALL TO <データベース所有者名>
```

Quality Center サイト管理のログイン資格情報

サイト管理者の名前とパスワードは、Quality Center サイト管理に初めてログインするときに定義します。

- ▶ クリーン・インストールした環境では、任意の有効な Quality Center サイト管理ユーザ名およびパスワードを使用できます。
- ▶ 既存のデータベース・スキーマに対して既存のサイト管理ユーザを使用する場合は、以前のバージョンの Quality Center と同じパスワードを使用する必要があります。加えて、プロジェクト・ディレクトリは既存のドメイン・リポジトリを指すようにする必要があります。

Quality Center リポジトリ・パス

リポジトリ・ディレクトリの場所は、インストール作業時にユーザが指定します。標準設定の場所は **C:¥Program Files¥HP¥Quality Center¥repository** です。ユーザには、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」で説明されているとおり、Quality Center リポジトリ・パスに対するすべての制御権限が必要です。

Quality Center クライアント側の要件

クライアント・マシンに Quality Center をダウンロードするには、次の要件を満たしている必要があります。

✓	要件	ページ
	システム構成	47
	Quality Center のダウンロードに必要な権限	47
	Internet Explorer の構成	48
	.NET Framework のインストール	50

システム構成

クライアント・マシンが Quality Center のシステム構成を満たしていることを確認してください。Quality Center のクライアントに必要なシステム要件の詳細については、25 ページ「クライアントのシステム構成」を参照してください。

Quality Center のダウンロードに必要な権限

クライアント・マシンに Quality Center をインストールするには、管理者特権を持ったローカルまたはドメイン・ユーザとしてログオンしていることと、下記のファイル・システムとレジストリの権限を持っていることが必要です。クライアント・マシンに Quality Center をインストールした後は、最小限の特権（たとえば **Users** グループ特権）しかないユーザでも Quality Center クライアントを起動できます。

次のファイル・システム権限が必要です。

- ▶ **C:¥Program Files¥Common Files¥Mercury Interactive** に対するすべての読み書き権限。この場所には Quality Center ActiveX ファイルおよび実行ファイルが格納されます。
- ▶ **C:¥WINNT**（Windows XP の場合は **C:¥Windows**）に対するすべての読み書き権限。この場所には **mercury.ini** ファイルが格納されます。

- ▶ 一時ディレクトリ (%TEMP% または %TMP%) に対するすべての読み書き権限。このディレクトリには、インストーラ・プログラムによってインストール・ファイルおよびログ・ファイルが書き込まれます。通常、一時ディレクトリは **C:\Documents and Settings\<ユーザー名>\Local Settings\Temp** にあります。

次のレジストリ・キーに対して、完全な読み書き権限が必要です。

- ▶ **HKEY_CLASSES_ROOT\AppID**
- ▶ **HKEY_CLASSES_ROOT\CLSID**
- ▶ **HKEY_CLASSES_ROOT**
- ▶ **HKEY_CLASSES_ROOT\Interface**
- ▶ **HKEY_CLASSES_ROOT\TypeLib**
- ▶ **HKEY_CURRENT_USER\Software**
- ▶ **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE**
- ▶ **HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\Cryptography\RNG**

Internet Explorer の構成

クライアント・マシンに Quality Center をダウンロードする前に、クライアント・マシン上の Internet Explorer ブラウザに対して次の構成を実行する必要があります。

- ▶ カスタム・レベルのセキュリティ設定を構成する。カスタム・レベルのセキュリティ設定は、Quality Center サーバに該当する特定のゾーンに対して構成します。
- ▶ Internet Explorer を通常使用する Web ブラウザとして設定する。これにより、Quality Center エンティティへの外部リンクは Quality Center 内で開きます。

クライアント・マシンのセキュリティ設定を構成するには、次の手順を実行します。

- 1 Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション] を選択します。[インターネット オプション] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [セキュリティ] タブをクリックします。Quality Center サーバに該当する Web コンテンツのゾーン ([インターネット] または [イントラネット]) が自動的に選択されます。[レベルのカスタマイズ] をクリックします。

3 [セキュリティの設定] ダイアログ・ボックスで、次の設定項目を構成します。

[.NET Framework 依存コンポーネント] で設定する項目は次のとおりです。

- ▶ [Authenticode で署名しないコンポーネントを実行する] を [有効にする] に設定します。
- ▶ [Authenticode で署名したコンポーネントを実行する] を [有効にする] に設定します。

[ActiveX コントロールとプラグイン] で設定する項目は次のとおりです。

- ▶ [ActiveX コントロールとプラグインの実行] を [有効にする] に設定します。
- ▶ [署名済み ActiveX コントロールのダウンロード] を [有効にする] または [ダイアログを表示する] に設定します。

注：[HP Quality Center アドイン] ページで [Quality Center クライアント側セットアップ] を選択して Quality Center クライアントをインストールする場合、[署名済み ActiveX コントロールのダウンロード] を有効にする必要はありません。これにより、すべての Quality Center モジュールをクライアント・マシンにインストールでき、ブラウザ経由でモジュールをダウンロードする必要はありません。アドインのインストールの詳細については、第8章「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。

4 [OK] をクリックします。

Internet Explorer を通常使用する Web ブラウザとして設定するには、次の手順を実行します。

- 1 Internet Explorer で、[ツール] > [インターネット オプション] を選択します。
[インターネット オプション] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [プログラム] タブをクリックします。
- 3 Internet Explorer を通常使用するブラウザとして設定します。

- ▶ Internet Explorer 6：[Internet Explorer の起動時に、通常使用するブラウザを確認する] オプションを選択します。

Internet Explorer を閉じて再度開きます。プロンプトが表示されたら、Internet Explorer が通常使用するブラウザであることを確認します。

- ▶ Internet Explorer 7 : [既定の Web ブラウザ] の下で、Internet Explorer が既定のブラウザとして設定されていることを確認します。既定のブラウザとして設定されていない場合は、[既定とする] ボタンをクリックします。

.NET Framework のインストール

Quality Center クライアントをインストールするには、そのクライアント・マシンに Microsoft .NET Framework 2.0 (SP1) がインストールされている必要があります。まだインストールされていない場合は、Quality Center クライアントのインストール時に Microsoft .NET Framework 2.0 のインストールを求められます。インストールを実行するには、ソフトウェア更新のインストール・ウィザード (Windows Installer 3.1 がインストールされていない場合) および Microsoft .NET Framework 2.0 セットアップの手順に従って操作します。

初めて Quality Center を実行するとき、Microsoft .NET Framework を使用して Quality Center を実行するためのユーザ・インタフェースと構成ファイルが、クライアント・マシンの

C:\Program Files\Common Files\Mercury Interactive\Quality Center

Client\Client.cab にダウンロードされます。まだそのマシンに

.NET Framework 2.0 がインストールされていない場合は、

C:\Program Files\Common Files\Mercury Interactive\Quality Center に **dotnetfx.exe** もダウンロードされます。

プロジェクトとデータベース・スキーマのアップグレード

本項では、プロジェクトと既存のデータベース・スキーマを Quality Center 10.00 にアップグレードする方法を説明します。

本項の内容

- ▶ 以前のバージョンとエディションからのプロジェクトのアップグレード (51 ページ)
- ▶ 従来のバージョン・コントロール・プロジェクトからのアップグレード (52 ページ)
- ▶ 既存スキーマのアップグレード (53 ページ)

以前のバージョンとエディションからのプロジェクトのアップグレード

次の表に、以前に作成したプロジェクトで作業するために必要な手順を示します。プロジェクトのアップグレードの詳細については、『**HP Quality Center Administrator's Guide**』（英語版）を参照してください。

対象バージョン	Quality Center 10.00 へのアップグレード
Quality Center 9.2 または Quality Center 9.0	<ol style="list-style-type: none"> 1 Microsoft SQL Server 2000 サーバで作業している場合は、お使いのデータベースをサポート対象のデータベースに移行する必要があります。詳細については、データベース管理者に問い合わせてください。 2 Quality Center 10.00 をインストールします。インストール・プロセスによりデータ・スキーマがアップデートされます。 3 Quality Center Site Administration 10.00 を使用してプロジェクトをアップグレードします。
Quality Center Starter Edition 9.0	<p>Starter Edition :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Quality Center Starter Edition 10.00 にアップグレードする場合、MSDE 2000 データベース・サーバは Quality Center 10.00 でサポートされません。Quality Center 10.0 のインストール・プロセス中に、Microsoft SQL Server 2005 Express がサーバ・マシンにインストールされます。MSDE 2000 データベースは Microsoft SQL Server 2005 Express に自動的にアップグレードされます。サイト管理スキーマもアップグレードされます。 2 Quality Center Site Administration 10.00 を使用してプロジェクトをアップグレードします。
	<p>Enterprise Edition :</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 Quality Center Enterprise Edition 10.00 にアップグレードする場合は、まず MSDE 2000 データベースをサポート対象のデータベースに移行する必要があります。詳細については、データベース管理者に問い合わせてください。 2 Quality Center 10.00 をインストールします。インストール・プロセスによりデータ・スキーマがアップデートされます。 3 Quality Center Site Administration 10.00 を使用してプロジェクトをアップグレードします。

対象バージョン	Quality Center 10.00 へのアップグレード
Quality Center 8.x, TestDirector 8.0, TestDirector 7.6	プロジェクトをまず Quality Center 9.0 または 9.2 にアップグレードする必要があります。
Quality Center Starter Edition 10.00	<ol style="list-style-type: none"> 1 Quality Center Enterprise Edition または Quality Center Premier Edition にアップグレードする場合は、お使いの Microsoft SQL Server 2005 Express データベースをサポート対象のデータベースに移行する必要があります。詳細については、データベース管理者に問い合わせてください。 2 サポート対象のオペレーティング・システムに Quality Center Enterprise Edition または Quality Center Premier Edition をインストールします。既存のサイト管理データベース・スキーマをアップグレードする場合は、移行後のデータベース名を使用する必要があります。 3 プロジェクトをアップグレードする必要はありません。
Quality Center Enterprise Edition 10.00	Quality Center Premier Edition に移行する場合は、プロジェクトをアップグレードする必要はありません。

従来のバージョン・コントロール・プロジェクトからのアップグレード

バージョン・コントロールを使用する Quality Center 9.0 または 9.2 のプロジェクトは、バージョン・コントロールが有効になっている間は Quality Center 10.00 にアップグレードできません。プロジェクトのバージョン・コントロールを無効にすると、過去の履歴は使用できなくなります。

Quality Center 10.00 のインストール前にプロジェクトのバージョン・コントロールを無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 サイト管理 9.0 または 9.2 にログインします。
- 2 プロジェクトのバージョン・コントロールを無効にします。
- 3 Quality Center 10.00 をインストールします。
- 4 サイト管理 10.00 にログインします。
- 5 プロジェクトをアップグレードします。
- 6 アップグレードしたプロジェクトのバージョン・コントロールを有効にします。

Quality Center 10.00 のインストール後にプロジェクトのバージョン・コントロールを無効にするには、次の手順を実行します。

- 1 サイト管理 10.00 にログインします。
- 2 プロジェクトを削除します。
- 3 サイト管理 9.0 または 9.2 にログインします。
- 4 プロジェクトのバージョン・コントロールを無効にします。
- 5 サイト管理 10.00 にログインします。
- 6 プロジェクトを復元します。
- 7 プロジェクトをアップグレードします。

既存スキーマのアップグレード

以前のバージョンの Quality Center から Quality Center 10.00 にアップグレードする場合は、インストール・プロセス中に既存のデータベース・スキーマの名前を指定し、次のスキーマ・アップグレード・オプションのいずれかを選択する必要があります。

- ▶ **「既存スキーマをアップグレードする」**：既存のサイト管理データベース・スキーマ名を入力します。既存のスキーマをアップグレードし、すべてのユーザを Quality Center 10.00 に切り替える場合は、このオプションを選択します。このオプションを選択すると、以前のバージョンの Quality Center で作成したプロジェクトやユーザは、Quality Center 10.00 にアップグレードするまで使用できません。
- ▶ **「既存スキーマのコピーをアップグレードする」**：既存サイト管理データベース・スキーマのコピーを作成し、そのコピーをアップグレードします。このオプションでは、Quality Center 10.00 で新規プロジェクトやアップグレードしたプロジェクトを使用でき、さらに以前のバージョンの Quality Center でアップグレードされていないプロジェクトを使い続けることもできるため、このオプションを選択することが推奨されます。これにより既存のプロジェクトを段階的にアップグレードできます。既存スキーマのコピーのアップグレードに関するその他の注意とガイドラインについては、54 ページ「既存スキーマのコピーのアップグレードのためのガイドライン」を参照してください。

注：新しいデータベース・スキーマは、既存のサイト管理データベースと同じ表領域内に作成されます。

既存データベース・スキーマの使用方法の詳細については、36 ページ「Oracle のデータベース要件」または 42 ページ「Microsoft SQL のデータベース要件」を参照してください。

既存スキーマのコピーのアップグレードのためのガイドライン

お使いのデータベース・サーバ・マシンにサイト管理データベース・スキーマがあり、既存スキーマのコピーをアップグレードする場合は、次のガイドラインを検討してください。

Quality Center ユーザ	Quality Center 10.00 をインストールしてから、以前のバージョンの Quality Center でユーザの追加、削除またはユーザの詳細の更新を実行した場合は、Quality Center 10.00 でも同じ変更を加える必要があります。
Quality Center 設定パラメータ	Quality Center 10.00 をインストールしてから、以前のバージョンの Quality Center で設定パラメータを変更した場合は、Quality Center 10.00 でも同じ変更を加える必要があります。
サーバ・ノードの設定	Quality Center 10.00 用サイト管理の [サーバ] タブでサーバ・ノードを操作する際には、Quality Center サーバ・ログ・ファイルの設定項目およびデータベース接続の最大数を再設定する必要があります。
Quality Center リポジトリ・パス	以前のバージョンのリポジトリ・パスを、以前の Quality Center サーバと Quality Center 10.00 サーバの両方からアクセスできるように、ネットワーク・パスとして定義する必要があります。
DATACONST テーブル	DATACONST テーブル内に、ネットワーク・パスとして、定数 <code>db_directory</code> , <code>tests_directory</code> , <code>unix_db_directory</code> , および <code>unix_tests_directory</code> を設定する必要があります。この設定により、これらのパスは以前の Quality Center サーバと Quality Center 10.00 サーバの両方からアクセスできるようになります。
オペレーティング・システム	Quality Center 10.00 は、以前のバージョンの Quality Center と同じオペレーティング・システム上にインストールする必要があります。

テキスト検索の設定

テキスト検索は、テキスト検索機能が Oracle または Microsoft SQL データベース・サーバにインストールおよび設定されている場合にのみ使用できます。

- ▶ Microsoft SQL 2005 SP2 および Oracle 10.2.0.3 では、テキスト検索機能が標準でインストールされ、設定作業は必要ありません。
- ▶ Oracle 9.2.0.6 の場合、Oracle データベース・サーバにテキスト検索機能をインストールして設定する必要があります。Oracle 9i データベース・サーバおよび Quality Center でテキスト検索機能を有効にする方法の詳細については、『**HP Quality Center Administrator's Guide**』（英語版）を参照してください。

第1章・インストールの前に

第 2 章

Quality Center のインストール

本章では、Quality Center Enterprise Edition および Quality Center Premier Edition のインストール方法を説明します。また、サイレント・インストールのための Quality Center のセットアップ方法についても説明します。Quality Center Starter Edition のインストールの詳細については、第 3 章「Quality Center Starter Edition のインストール」を参照してください。

本章の内容

- ▶ Quality Center のインストールについて (57 ページ)
- ▶ クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント (58 ページ)
- ▶ Quality Center のインストール (62 ページ)
- ▶ サイレント・モードでの Quality Center のインストール (84 ページ)

Quality Center のインストールについて

Quality Center は単一ノードに、またはクラスタとしてインストールできます。Quality Center をクラスタ・ノードにインストールする場合、すべてのノードが同一でなければなりません。たとえば、すべてのノードで同じアプリケーション・サーバ、オペレーティング・システム、Quality Center ディレクトリ、およびサイト管理データベースを使用する必要があります。また、すべてのノードに同じバージョンの Quality Center をインストールする必要があります。

Solaris, Linux, AIX または HP-UX のクラスタ環境で作業する場合は、Quality Center のインストールを始める前にファイル・システム・リポジトリをマウントする必要があります。詳細については、58 ページ「クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント」を参照してください。

注：データベースは一次ノードへの Quality Center のインストール時にセットアップされるため、Quality Center をクラスタの二次ノードにインストールするときにはセットアップは不要です。このインストール手順で説明するダイアログ・ボックスのいくつかは、一次ノードにのみ必要です。二次ノードにインストールする場合には表示されません。

クラスタ環境におけるファイル・システム・リポジトリのマウント

Solaris, Linux, AIX または HP-UX のクラスタ環境で作業する場合は、Quality Center のインストールを始める前にファイル・システム・リポジトリをマウントする必要があります。ファイル・システム・リポジトリのマウントにはキャッシュ・メカニズムを使用しないでください。

Linux においてファイル・システム・リポジトリをマウントするには、次の手順を実行します。

- ▶ **NFS マウント：**NFS マウントを使用する場合には、**/etc/fstab** ファイルを次のように変更します。

```
<ソース> <ターゲット> nfs sync,noac 0 0
```

- ▶ **SMBFS マウント：**SMBFS (Windows マシンからマウントされる) を使用する場合には、**/etc/fstab** ファイルを次のように変更します。

```
<ソース> <ターゲット> smbfs  
credentials=/root/.smbpasswd,rw,gid= < GID > ,uid= < UID > ,  
fmask=0777,dmask=0777 0 0
```

例を次に示します。

```
//qcserver/QCrepository /mnt/QCrepository smbfs  
credentials=/root/.smbpasswd,rw,gid=10,uid=qcadmin,  
fmask=0777,dmask=0777 0 0
```

パラメータの説明

- ▶ `//qcserver/QCrepository` はソース・パスの UNC です。
- ▶ `uid=qcadmin` はドメイン・ユーザです。`qcadmin` は Windows サーバのユーザでなければならず、管理者グループに属している必要があります。
- ▶ `/mnt/QCrepository` はローカル・フォルダです。

この例では、`qcadmin` は次のように資格情報ファイル (`/root/.smbpasswd`) で定義されていなければなりません。

```
username = qcadminpassword = < qcadmin のパスワード >
```

`/etc/samba/smb.conf` ファイルを編集し、`workgroup` 値をドメイン名に変更します (例: MERCURY)

Solaris においてファイル・システム・リポジトリをマウントするには、次の手順を実行します。

NFS マウント : NFS マウントを使用する場合には、`/etc/vfstab` ファイルを次のように変更します。

```
<ソース> - <ターゲット> nfs - yes sync,noac
```

AIX においてファイル・システム・リポジトリをマウントするには、次の手順を実行します。

- ▶ **SMB マウント** : SMB マウントを使用する場合は、次を実行します。

```
mount -v cifs -n server/user/pass -o uid= < UID > ,fmode=750 / <共有名> /mnt
```

`cifs` がインストールされていない場合、(インストール DVD を挿入した状態で) `smit` インストールを実行して `cifs` をインストールします。

- ▶ **NFS マウント** : NFS マウントを使用する場合には、`/etc/fstab` ファイルを次のように変更します。

```
mount <リモート・マシン> : <リモート・パス> <ローカル・パス>
```

例を次に示します。

```
#> mount venus:target /vol/vol1/a-m/apollo

* Pathname of mount point      [/target]      /
* Pathname of remote directory [vol/vol1/a-m/apollo]
* Host where remote directory resides [venus]
Mount type name                []
* Security method              [sys]
* Mount now, add entry to /etc/filesystems or both? both
* /etc/filesystems entry will mount the directory yes
* Mode for this NFS file system read-write
* Attempt mount in foreground or background background
Number of times to attempt mount []
Buffer size for read            [4096]
Buffer size for writes          [4096]
NFS timeout.In tenths of a second []
NFS version for this NFS filesystem any
Transport protocol to use      tcp
Internet port number for server []
* Allow execution of setuid and setgid programs yes
* Allow device access via this mount? yes
* Server supports long device numbers? yes
* Mount file system soft or hard hard
Minimum time, in seconds, for holding attribute cache after file modification [3]
Allow keyboard interrupts on hard mounts? yes
Maximum time, in seconds, for holding [60]
Minimum time, in seconds, for holding [30]
Maximum time, in seconds, for holding attribute cache after directory modification [60]
Minimum & maximum time, in seconds, for [6]
The maximum number of biod daemons allowed [6]
* Use acls on this mount? no
Number of NFS retransmits      []
* Exchange POSIX pathconf information? no
* Inherit group IDs? no
```

これにより、**/target** に **venus:/vol/vol1/a-m/apollo** がマウントされ、**/etc/filesystem** に次の行が追加されます。

```
/target:
  dev      = "/vol/vol1/a-m/apollo"
  vfs      = nfs
  nodename = venus
  mount    = true
  options  = bg,hard,intr,rsize=4096,wsiz=4096,proto=tcp,sec=sys
  account  = false
```

マウント・ポイントは、再起動時には自動的にマウントされます。

Quality Center のインストール

本項では、Quality Center 10.00 のインストール方法について説明します。

Quality Center をインストールする前に、次の点を検討してください。

- ▶ 30 ページ「Quality Center サーバ側の要件」のインストール仕様を満たしていることを確認します。
- ▶ プロジェクトと既存のデータベース・スキーマを Quality Center 10.00 にアップグレードする場合は、50 ページ「プロジェクトとデータベース・スキーマのアップグレード」を参照してください。
- ▶ Quality Center のインストール・プロセスで問題が発生した場合は、付録 A 「Quality Center のインストールに関するトラブルシューティング」でトラブルシューティングのヒントを参照してください。

Quality Center をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 Quality Center の以前のバージョンを使用していた場合は、新しいバージョンをインストールする前に既存のプロジェクトをバックアップします。詳細については、『HP Quality Center Administrator’s Guide』（英語版）を参照してください。
- 2 Quality Center サーバ・マシンに適切な権限でログインします。必要な権限の一覧については、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」を参照してください。
- 3 Quality Center がマシンにインストールされている場合、これをアンインストールします。詳細については、第12章「Quality Center のアンインストール」を参照してください。

注：Quality Center をアンインストールした後は、**< Quality Center ホーム >** **¥application** ディレクトリが削除されたことを確認します。残っている場合は、もう一度 Quality Center をインストールする前にこのディレクトリを削除してください。

- 4 HP Quality Center 10.00 ソフトウェア・インストール DVD を DVD ドライブに挿入し、お使いのプラットフォームの適切な**セットアップ**・ファイルを実行します。

Solaris, Linux, AIX または HP-UX プラットフォームで作業している場合：

- ▶ コンソール・モードでインストールするには、**console** オプションを使用します。たとえば、`linux_setup.bin -console`。
- ▶ UI モードでインストールするには、Quality Center ホスト・マシンで DISPLAY 環境変数が正しく設定されていることと、インストール元のマシンで X-Server (Exceed など) が実行されていることを確認します。

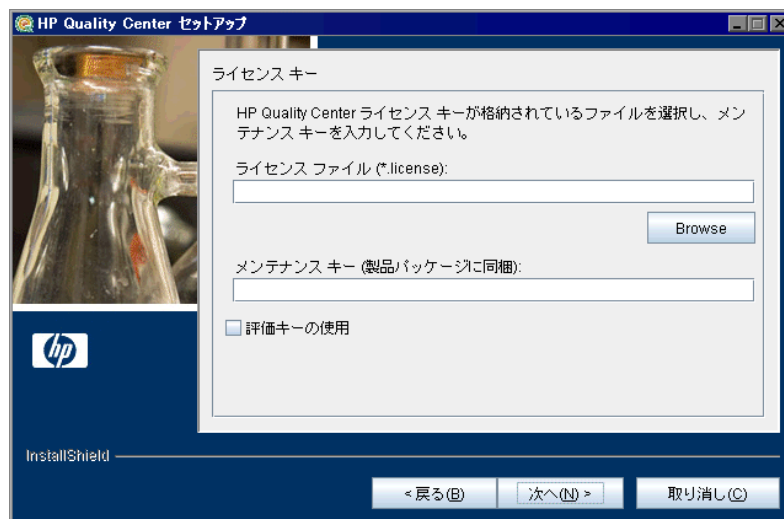
5 [よろこそ] ダイアログ・ボックスが開きます。[次へ] をクリックします。

6 [使用許諾契約] ダイアログ・ボックスが開きます。

使用許諾契約をお読みください。使用許諾契約の条件に同意する場合は、[使用条件の条項に同意します。] をクリックします。

[次へ] をクリックします。

7 [ライセンス キー] ダイアログ・ボックスが開きます。



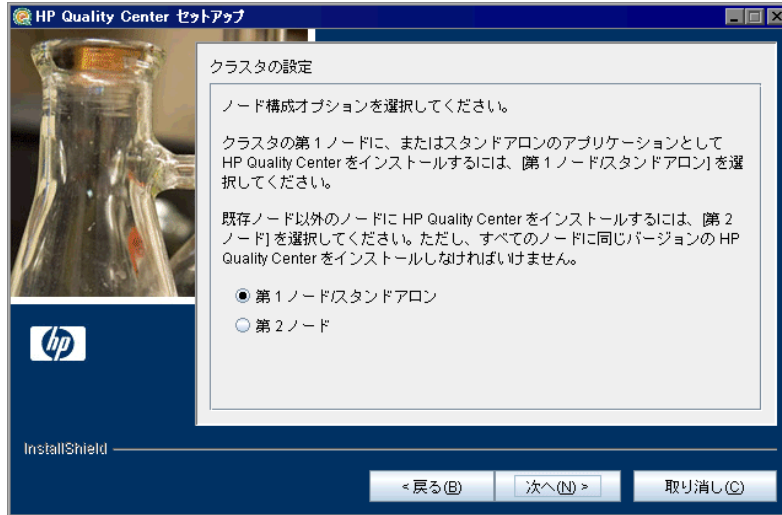
[ライセンス ファイル]：Quality Center のライセンス・ファイルのパスを指定します。ライセンス・ファイルがない場合は、Quality Center の 30 日間の体験版用に [評価用キーを使う] を選択します。

[メンテナンス キー]：Quality Center の購入時に入手したメンテナンス番号を入力します。

ライセンス・キーおよびメンテナンス・キーの詳細については、33 ページ「ライセンス・ファイルおよびメンテナンス・キー」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

8 [クラスタの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



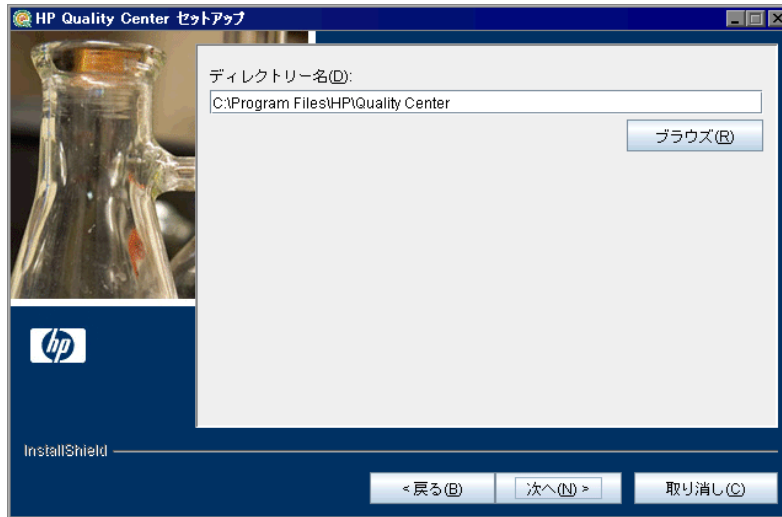
ノードの設定オプションを選択します。

- ▶ **[第1ノード/スタンドアロン]**: Quality Center をクラスタの最初のノードに、またはスタンドアロン・アプリケーションとしてインストールします。
- ▶ **[第2ノード]**: 既存のノードがある場合に、Quality Center を別のノードにインストールしてクラスタを作成します。

クラスタ設定の詳細については、33 ページ「クラスタリングの設定」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

9 [ディレクトリー名] ダイアログ・ボックスが開きます。

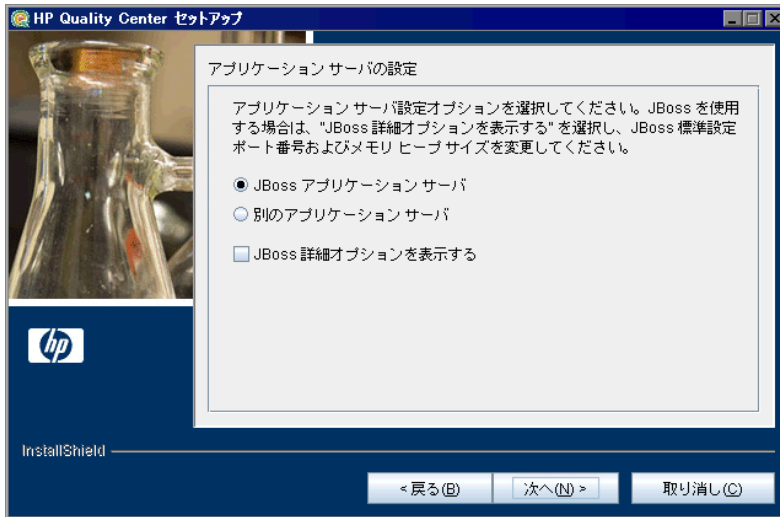


Quality Center をインストールする場所を指定します。可能な場所を参照するには、[ブラウズ] ボタンをクリックし、場所を選択してから [開く] をクリックします。

インストール・ディレクトリに対して必要な権限の詳細については、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

- 10 [アプリケーション サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のアプリケーション・サーバ設定オプションのいずれかを選択します。

- ▶ **[JBoss アプリケーション サーバ]** : JBoss を使用するにはこのオプションを選択します。

標準の JBoss ポート番号または JBoss メモリ・ヒープ・サイズを変更するには、**[JBoss 詳細オプションを表示する]** を選択します。

- ▶ **[別のアプリケーション サーバ]** : WebLogic または WebSphere を使用するにはこのオプションを選択します。

アプリケーション・サーバ・オプションの詳細については、34 ページ「アプリケーション・サーバの情報」を参照してください。

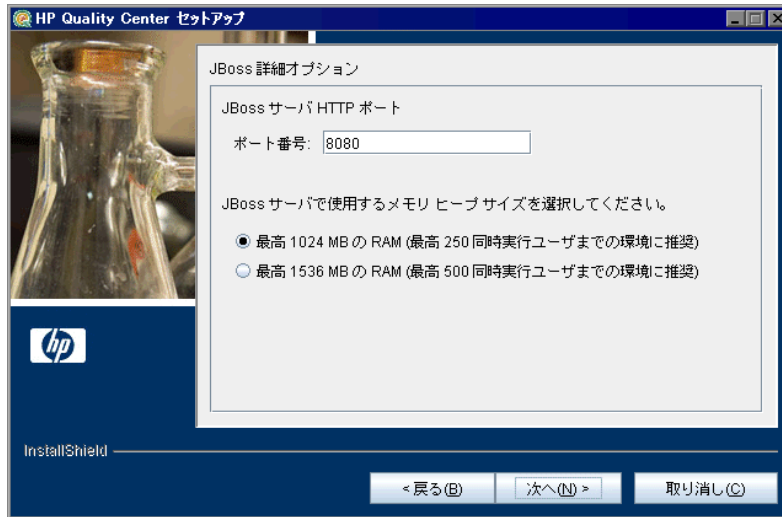
[次へ] をクリックします。

- 11 **[JBoss アプリケーション サーバ]** を選択した場合は、67 ページの手順 12 に進みます。

[別のアプリケーション サーバ] を選択した場合は、71 ページの手順 17 に進みます。

12 [JBoss 詳細オプションを表示する] を選択しなかった場合は、68 ページの手順 13 に進みます。

[JBoss 詳細オプションを表示する] を選択した場合は、[JBoss 詳細オプション] ダイアログ・ボックスが開きます。



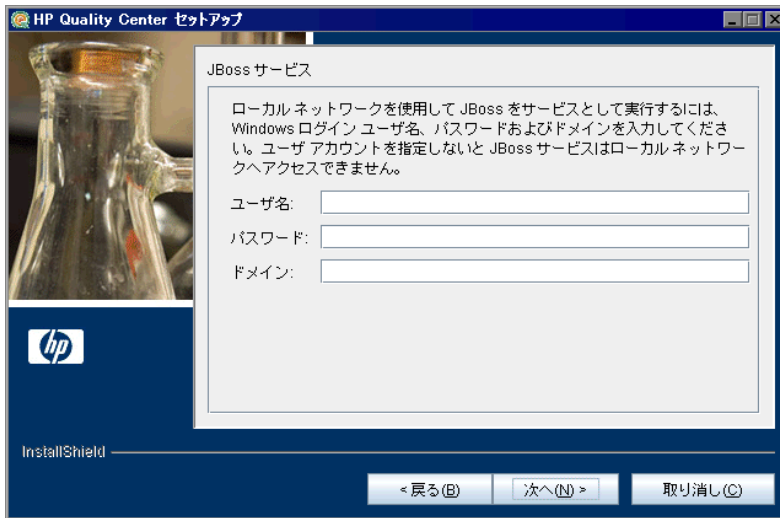
[**ポート番号**] ボックスで、JBoss サーバの HTTP ポート番号を変更できます。標準設定のポートは 8080 です。

JBoss サーバで使用する JBoss メモリ・ヒープ・サイズを選択します。標準設定は最大 1024 MB です。ただし、最大メモリ (RAM) サイズを超える JBoss ヒープ・サイズを設定することはできません。JBoss のパフォーマンスのチューニングの詳細については、JBoss のドキュメントを参照してください。

[**次へ**] をクリックします。

注：JBoss アプリケーション・サーバのヒープ・メモリの値およびポート番号は、Quality Center をインストールした後に変更できます。詳細については、第 11 章「JBoss のヒープ・メモリ・サイズおよびポートの変更」を参照してください。

- 13 [JBoss アプリケーション サーバ] を選択した場合は, [JBoss サービス] ダイアログ・ボックスが開きます。



JBoss をサービスとして実行する [ユーザ名], [パスワード], [ドメイン] を入力します。これで, JBoss サービスがローカル・ネットワークにアクセスできるようになります。

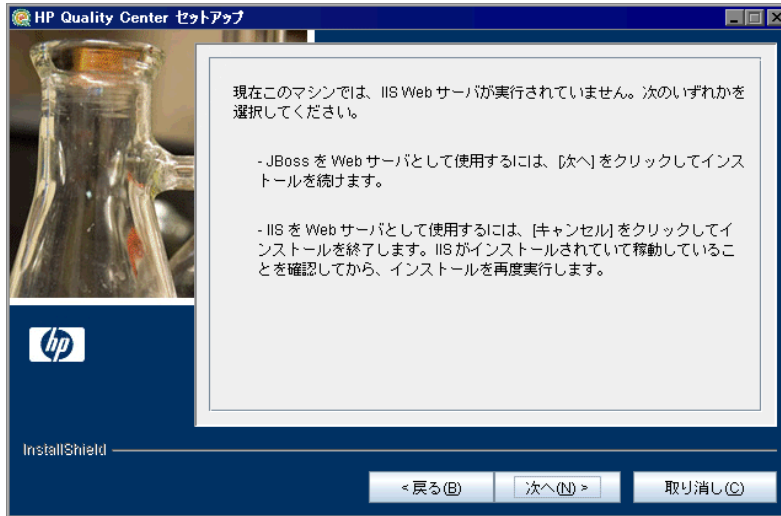
これらを空のままにした場合は, ローカル・システム・アカウントを使用して JBoss サービスが実行され, JBoss サービスがローカル・ネットワークにアクセスできなくなります。したがって, その場合はリポジトリとデータベースはローカル・マシン上に置く必要があります。

ユーザ権限の詳細については, 34 ページ「Windows 版の JBoss」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

14 IIS Web サーバがマシンにインストールされている場合は、70 ページの手順 15 に進みます。

IIS Web サーバがマシンにインストールされていない場合は、次のダイアログ・ボックスが開きます。

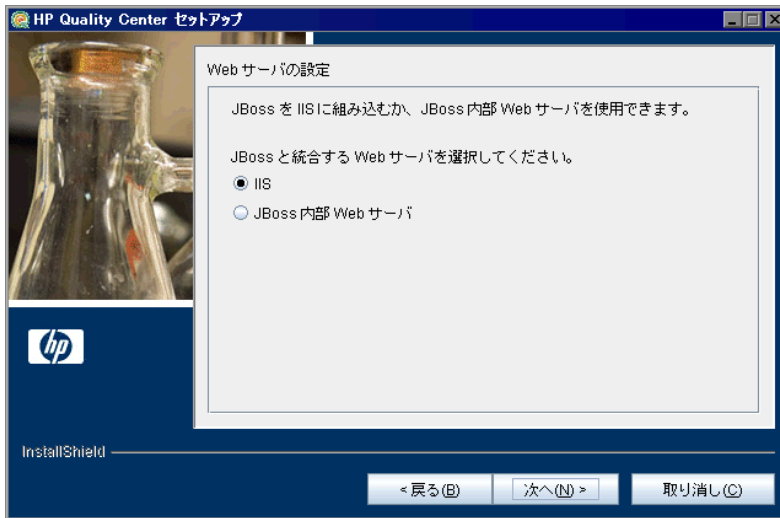


Quality Center のインストールでは、JBoss を IIS Web サーバまたは JBoss Web サーバと統合できます。または、JBoss を Apache Web サーバと手動で統合することもできます。詳細については、第6章「手動による JBoss と Apache の統合」を参照してください。Quality Center の標準設定では、JBoss と IIS Web サーバが統合されます。

次のいずれかを選択します。

- ▶ JBoss を Web サーバとして使用するには、[次へ] をクリックしてインストールを続けます。71 ページの手順 17 に進みます。
- ▶ IIS を Web サーバとして使用するには、[取り消し] をクリックしてインストールを終了します。IIS がインストールされており、実行されていることを確認したら、インストールを再度実行します。

- 15 IIS Web サーバがマシンにインストールされていると、[Web サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



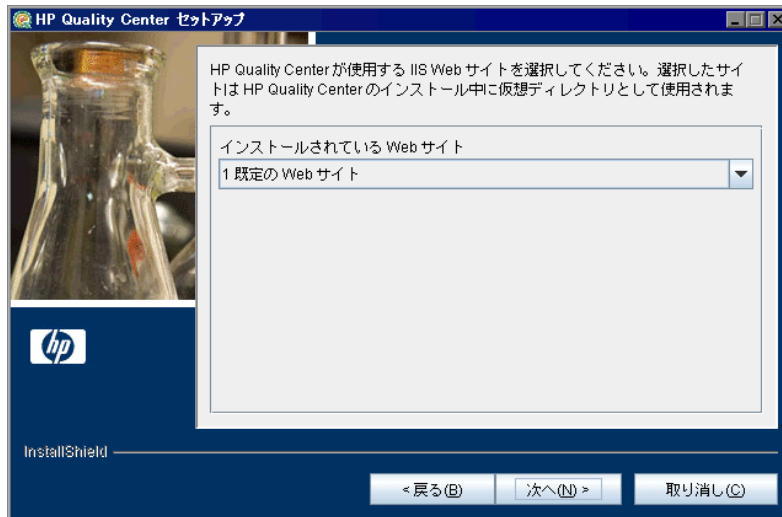
JBoss と統合する Web サーバを選択します。Web サーバ・オプションの詳細については、35 ページ「Web サーバの情報」を参照してください。

注：

- ▶ 64 ビット版 Windows マシンで IIS Web サーバと Quality Center を組み合わせて使用するための設定方法の詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM524615 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM524615>) を参照してください。
- ▶ リモート・マシンで IIS Web サーバから JBoss へ要求をリダイレクトする方法の詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM190530 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM190530>) を参照してください。

[次へ] をクリックします。

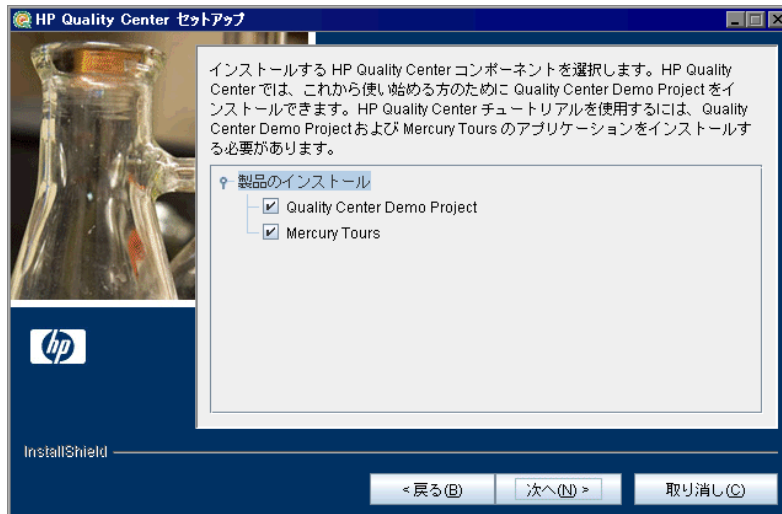
- 16 [JBoss 内部 Web サーバ] を選択した場合は、71 ページの手順 17 に進みます。
[IIS] を選択した場合は、[IIS Web サイト] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center で使用する IIS Web サイトを選択します。[既定の Web サイト] を使用することをお勧めします。

[次へ] をクリックします。

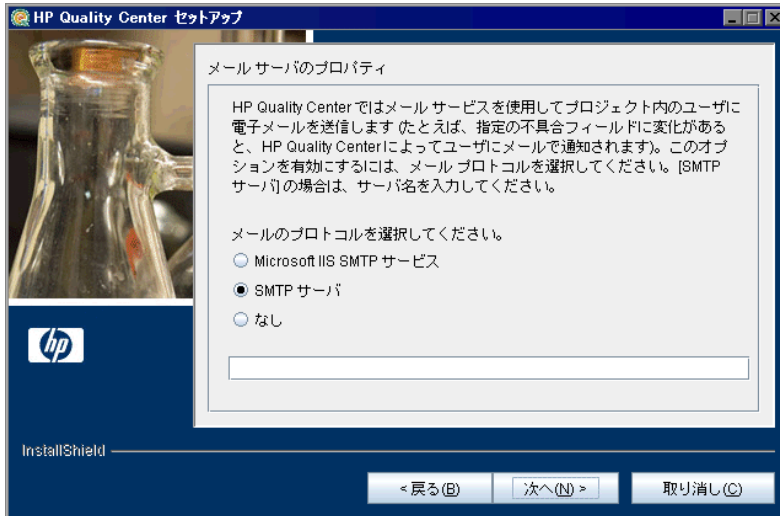
- 17 [HP Quality Center コンポーネント] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center では、これから使い始める方のために Quality Center デモ・プロジェクトをインストールできます。Quality Center チュートリアルを使用するには、Quality Center デモ・プロジェクトと、それに組み合わせて使用する Web ベースの旅行予約サンプル・アプリケーションをインストールする必要があります。

[次へ] をクリックします。

- 18 [メール サーバのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center から Quality Center プロジェクトに登録されているユーザに電子メールを送信できるようにするには、メール・プロトコルを選択します。

[SMTP サーバ] にはサーバ名を入力します。

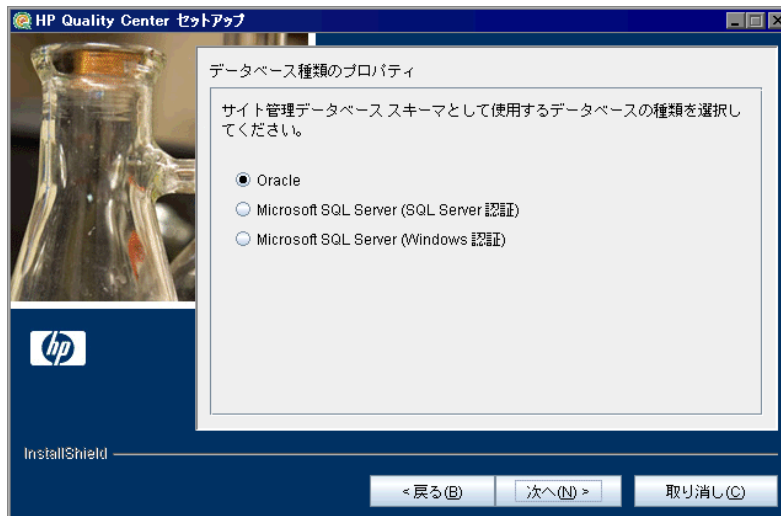
[次へ] をクリックします。

注： Microsoft IIS SMTP Service を使用するには、次の手順を実行します。

- a [インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウを開きます。
- b ツリー表示枠で、[既定の SMTP 仮想サーバー] を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[既定の SMTP 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。

- c [アクセス] タブの中で、[接続] ボタンをクリックします。[接続] ダイアログ・ボックスが開きます。[以下のリストに含まれるコンピュータ以外のすべて] を選択し、[OK] をクリックします。
- d [中継] ボタンをクリックします。[中継の制限] ダイアログ・ボックスが開きます。[以下のリストに含まれるコンピュータ以外のすべて] を選択し、[OK] をクリックします。
- e [OK] をクリックして、[既定の SMTP 仮想サーバーのプロパティ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

19 [データベース種類のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。



サイト管理データベース・スキーマ名を入力します。

Microsoft SQL Server を選択した場合は、認証の種類として次のいずれかを選択します。

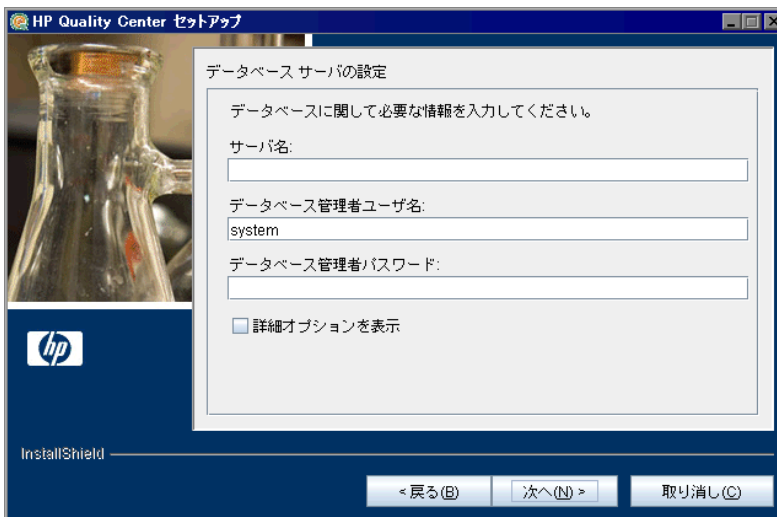
- ▶ **[Microsoft SQL Server (SQL Server 認証)]** : データベースに対するユーザ認証に、データベース・ユーザ名およびパスワードを使用します。
- ▶ **[Microsoft SQL Server (Windows 認証)]** : Windows 認証は、オペレーティング・システムによるユーザ認証に依存します。

データベース要件の詳細については、36 ページ「Oracle のデータベース要件」および 42 ページ「Microsoft SQL のデータベース要件」を参照してください。

注：プロジェクトを Quality Center 10.00 にアップグレードする場合は、以前に使用していたのと同じ SQL Server 認証の種類を使用する必要があります。

[次へ] をクリックします。

20 [データベース サーバの設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



データベース接続に関する次の情報を指定します。

- ▶ [サーバ名]：データベース・サーバ名を入力します。たとえば、dbsrv01 となります。
- ▶ [データベース管理者ユーザ名]：データベース・サーバ上に Quality Center をインストールするために必要な管理者特権を持ったユーザの名前を入力します。**Microsoft SQL Server (Windows 認証)**には適用されません。
- ▶ [データベース管理者パスワード]：データベース管理者のパスワードを入力します。**Microsoft SQL Server (Windows 認証)**には適用されません。
- ▶ [詳細オプションを表示]：データベースの種類に応じた詳細オプションを定義する場合は、このオプションを選択します。詳細オプションには、サイト管理データベース・スキーマ名およびパスワード、データベース・ポート、Oracle システム ID があります。

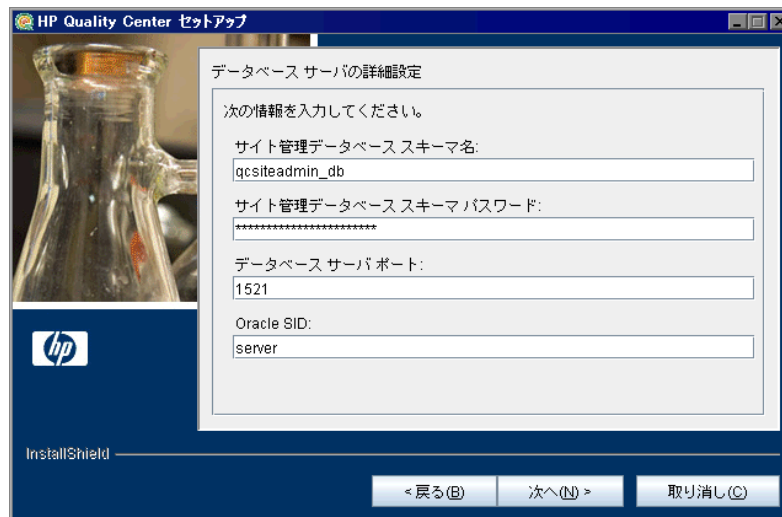
データベース要件の詳細については、36 ページ「Oracle のデータベース要件」および 42 ページ「Microsoft SQL のデータベース要件」を参照してください。

注：Microsoft SQL Server の名前付きインスタンスを使用して Quality Center をインストールする場合は、まず名前付きでないインスタンスを使用して Quality Center をインストールしてから、設定を変更する必要があります。Microsoft SQL Server の名前付きインスタンスと Quality Center を組み合わせた使用方法の詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM194198 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM194198>) を参照してください。

[次へ] をクリックします。

- 21 [詳細オプションを表示] を選択しなかった場合は、77 ページの手順 22 に進みます。

[詳細オプションを表示] を選択した場合は、[データベース サーバの詳細設定] ダイアログ・ボックスが開きます。



データベース接続に関する次の詳細情報を指定します。

- ▶ **[サイト管理データベース スキーマ名]** : サイト管理データベース・スキーマ名を入力するか、標準設定のスキーマ名をそのまま使用します。

注 : 既存のサイト管理データベース・スキーマを Quality Center 10.00 で作業するためにアップグレードする場合は、アップグレード前のものと同じ名前を使用する必要があります。

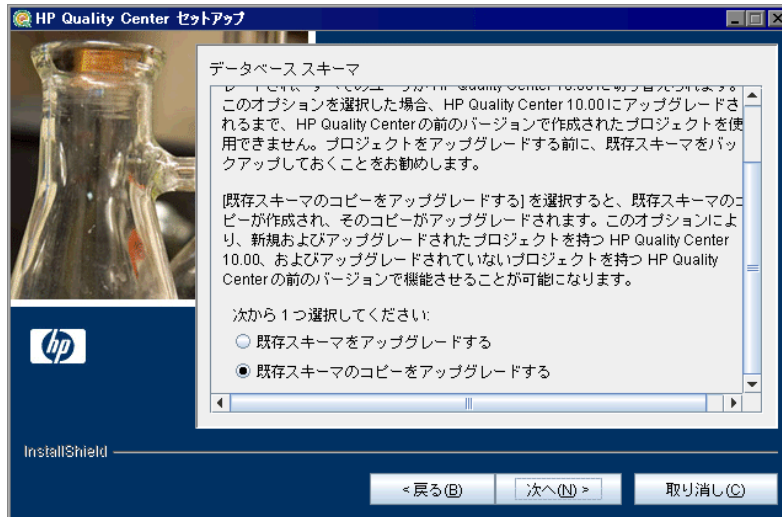
- ▶ **[サイト管理データベース スキーマ パスワード]** : サイト管理データベースにアクセスするためのパスワードを入力します。このフィールドは必須です。**Microsoft SQL Server (Windows 認証)** には適用されません。
- ▶ **[データベース サーバ ポート]** : データベース・サーバのポート番号を入力するか、標準設定のポート番号をそのまま使用します。
- ▶ **[Oracle SID]** : Oracle システム識別子を入力します。これは、Oracle サーバがインストールされているホスト・マシン上で特定の Oracle インスタンスを識別する Oracle パラメータです。**Microsoft SQL Server** には適用されません。

[次へ] をクリックします。

22 Oracle で、サイト管理データベースが存在しない場合は、79 ページの手順 24 に進みます。

Microsoft SQL Server で、サイト管理データベースが存在しない場合は、80 ページの手順 25 に進みます。

サイト管理データベースが存在する場合は、[データベース スキーマ] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかのスキーマ・アップグレード・オプションを選択します。

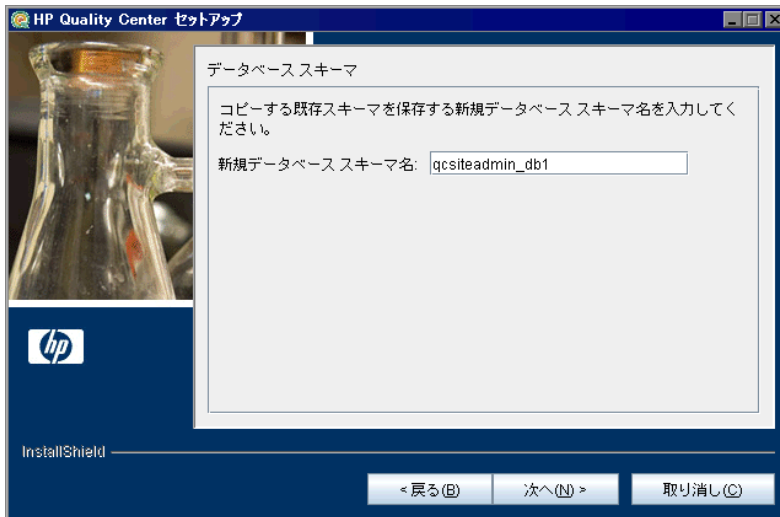
- ▶ **[既存スキーマをアップグレードする]**：既存のサイト管理データベース・スキーマ名を入力します。既存のスキーマをアップグレードし、すべてのユーザを Quality Center 10.00 に切り替える場合は、このオプションを選択します。
- ▶ **[既存スキーマのコピーをアップグレードする]**：既存サイト管理データベース・スキーマのコピーを作成し、そのコピーをアップグレードします。Quality Center 10.00 と以前のバージョンの Quality Center を同時に併用する場合は、このオプションを選択します。

重要：使用するスキーマ・アップグレード・オプションを決める前に、慎重に検討してください。スキーマ・アップグレード・オプションに関する詳細、および追加の注意とガイドラインについては、53 ページ「既存スキーマのアップグレード」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

23 [既存スキーマをアップグレードする] を選択した場合は、80 ページの手順 25 に進みます。

[既存スキーマのコピーをアップグレードする] を選択した場合は、[データベース スキーマ] ダイアログ・ボックスが開きます。



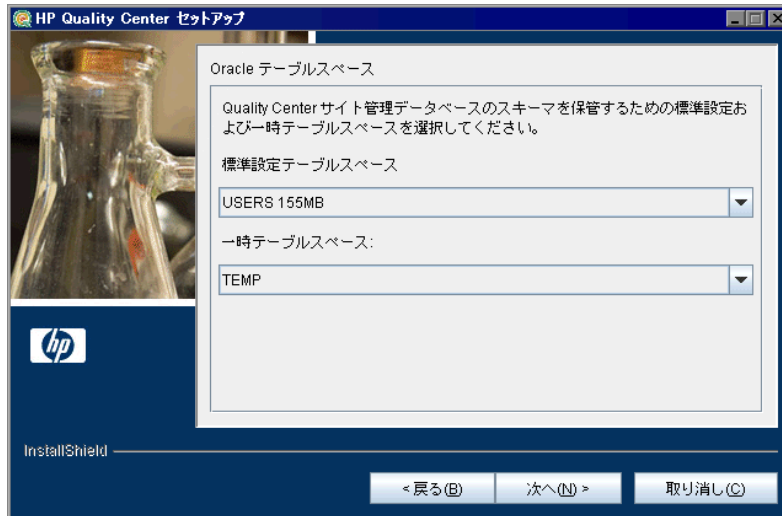
既存のサイト管理データベースをコピーするスキーマ名を選択します。コピーは、標準設定では1ずつ増える数字のサフィックスを名前に付加して保存されます（たとえば、qcsiteadmin_db1）。

[次へ] をクリックして、80 ページの手順 25 に進みます。

24 Quality Center を **Microsoft SQL Server** 上にインストールする場合は、80 ページの手順 25 に進みます。

追加のノードに Quality Center をインストールする場合、または、サイト管理データベースがすでに存在する場合、新しいデータベース・スキーマは既存のスキーマと同じ表領域内に作成されます。手順 25 に進みます。

Quality Center を **Oracle** 上にインストールする場合は、Oracle テーブルスペース選択用のダイアログ・ボックスが開きます。



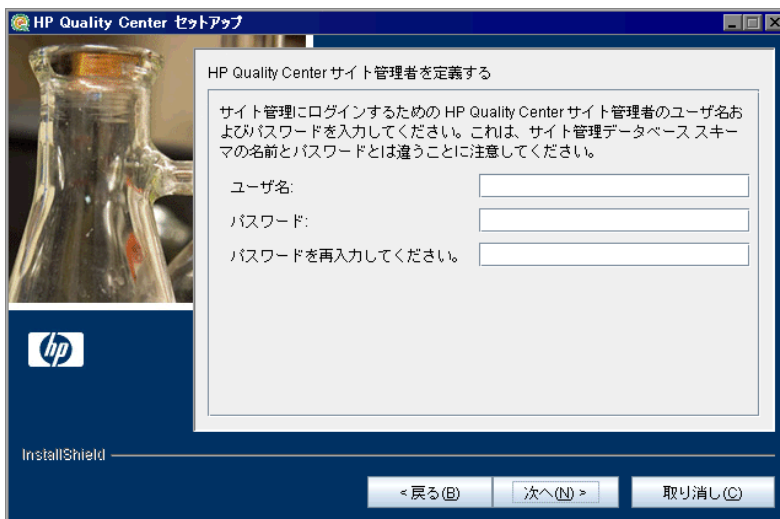
[**標準設定テーブルスペース**] で、リストから標準設定のテーブルスペースを選択します。

[**一時テーブルスペース**] で、リストから一時テーブルスペースを選択します。

注：Quality Center のインストールで表領域サイズが不足するのを避けるために、標準の保管場所には少なくとも 60 MB、一時保管場所には 30 MB の空き容量を確保しておくことをお勧めします。

[**次へ**] をクリックします。

25 [HP Quality Center サイト管理者] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center サイト管理に初めてログインするときには、このダイアログ・ボックスで定義するサイト管理者名とパスワードを使用します。インストールした後、サイト管理において、サイト管理者の変更や別のサイト管理者の追加を行うことができます。

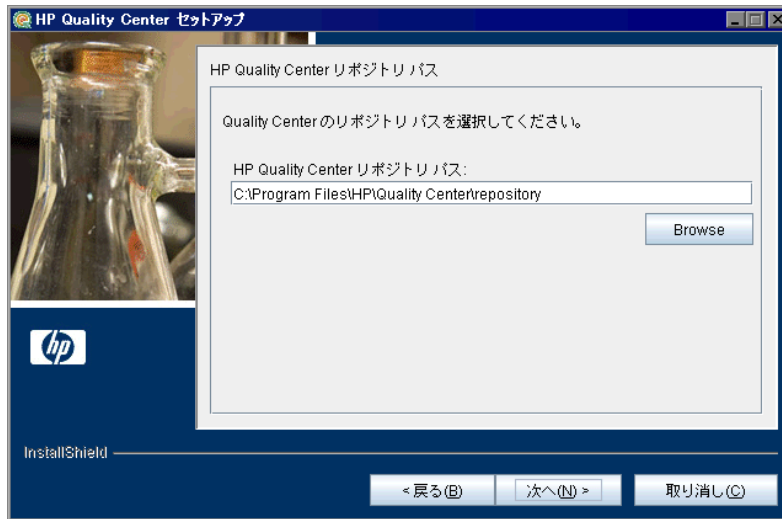
サイト管理者の [ユーザ名] および [パスワード] を入力し、確認用にもう一度パスワードを入力します。

注：

- ▶ サイト管理者のユーザ名とパスワードを覚えておくことは重要です。忘れると、サイト管理にログインできなくなります。
- ▶ 既存のデータベース・スキーマに対して既存のユーザを使用する場合は、以前のバージョンの Quality Center と同じパスワードを使用する必要があります。詳細については、46 ページ「Quality Center サイト管理のログイン資格情報」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

- 26 [HP Quality Center リポジトリ パス] ダイアログ・ボックスが開きます。



[**HP Quality Center リポジトリ パス**] ボックスの中で、[Browse] ボタンをクリックしてレポジトリ・パスを選択するか、標準のパスをそのまま使用します。レポジトリ・パスの詳細については、46 ページ「Quality Center リポジトリ・パス」を参照してください。

注： クラスタ・ノードを使用するには、すべてのノードがこのパスにアクセスできる必要があります。

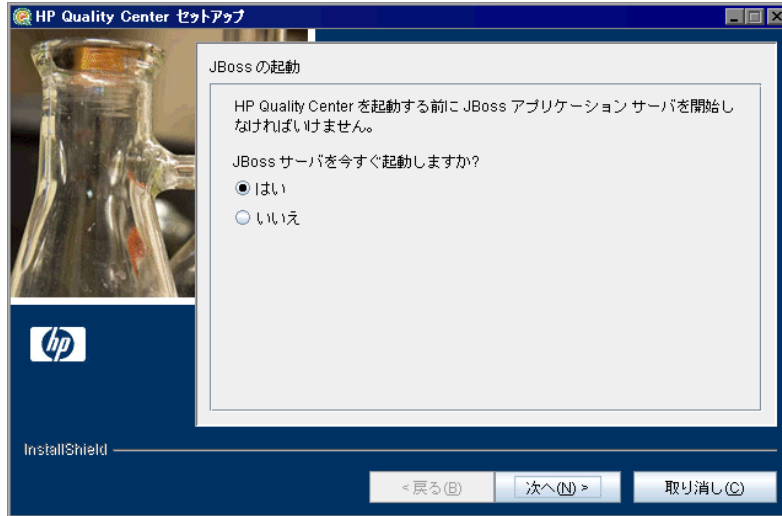
[**次へ**] をクリックします。

- 27 [インストールのサマリ] ダイアログ・ボックスが開きます。設定を確認または変更する場合は、[戻る] をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、[次へ] をクリックします。インストール処理が開始されます。

- 28 アプリケーション・サーバが JBoss 以外ならば、手順 29 に進みます。

アプリケーション・サーバが JBoss ならば、[JBoss の起動] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかを選択します。

- ▶ [はい] : すぐに JBoss サーバを起動します。
- ▶ [いいえ] : 後で JBoss サーバを手動で起動します。

[次へ] をクリックします。

- 29 インストール処理が完了すると、[インストールの終了] ダイアログ・ボックスが開きます。[完了] をクリックします。

注 : JBoss を使用している場合、Quality Center がアプリケーション・サーバに自動的にデプロイされます。別のアプリケーション・サーバを使用している場合、Quality Center を手動でデプロイする必要があります。Quality Center の手動によるデプロイの詳細については、95 ページ「Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ」および 99 ページ「Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ」を参照してください。

- 30 コンピュータを再起動するように求められた場合、後でコンピュータを再起動することもできますが、Quality Center を設定または使用する前にはコンピュータを再起動する必要があります。再起動を求められたら、できるだけ早くコンピュータを再起動することを強くお勧めします。また、統合アドインなどの Quality Center の関連ファイルをインストールする前にもコンピュータを再起動する必要があります。

注：Quality Center を操作するために、Quality Center サーバ・マシン上で動作中の競合するアプリケーションを無効にする必要が生じる場合があります。このようなアプリケーションの一覧については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM176429 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM176429>) を参照してください。

- 31 IIS Web サーバを選択した場合は、Windows の [**スタート**] メニューから [**ファイル名を指定して実行**] を選択し、「IISReset」コマンドを入力します。

サイレント・モードでの Quality Center のインストール

サイレント・インストールを使用して Quality Center をインストールできます。サイレント・インストールでは、セットアップ・プロセスがすべてバックグラウンドで実行されます。セットアップ画面を操作したり、選択項目を入力したりする必要はありません。その代わりに、すべての設定パラメータに応答ファイルで定義する値が割り当てられます。標準以外の設定でサイレント・インストールを実行する場合は、複数の応答ファイルを作成できます。

本項の内容

- ▶ 注意と制限事項 (84 ページ)
- ▶ サイレント・インストールの実行 (85 ページ)

注意と制限事項

サイレント・インストールを実行する前に、次の点を検討してください。

- ▶ サイレント・モードでインストールを実行する場合、メッセージは表示されません。その代わりに、インストールの成否も含め、インストール情報はログ・ファイルで確認できます。インストール・ログ・ファイルは、Windows プラットフォームでは **%tmp%¥HP** ディレクトリの下にあります。また、Solaris, Linux, AIX および HP-UX プラットフォームでは、ログ・ファイルは Quality Center をインストールしたユーザのホーム・ディレクトリ (~) にあります。
- ▶ **-silent** パラメータは、応答ファイルまたはコマンド・ラインのいずれかに一度だけ指定します。応答ファイルとコマンド・ラインの両方に指定されていると、インストールは実行されません。エラー・メッセージは表示されません。
- ▶ インストールの問題を解決するために、次のコマンド・ラインを起動プログラムに追加することによって、起動プログラムのログ・ファイルを生成できます。

```
-is:log <出力ログのパス>
```

例 : `-is:log c:¥temp¥launcher.log`

このログ・ファイルは、インストールの起動時に生じる可能性のあるエラーなど、本来なら表示されない追加情報を提供します。

サイレント・インストールの実行

サイレント・インストールは、応答ファイルを使用して実行します。応答ファイルのテンプレートを使用するか、インストール中にインストール値を記録することによって、応答ファイルを作成できます。

サイレント・インストールを実行するには、次の手順を実行します。

- 1 サーバ・マシンから Quality Center の以前のインストールをすべてアンインストールします。
- 2 応答ファイルのテンプレートを使用するか、インストール中にインストール値を記録することによって、応答ファイルを作成できます。
 - ▶ 応答ファイルのテンプレートを作成してから、各自のインストール要件を満たすように変更するには、コマンド・ラインからお使いのプラットフォームの適切な**セットアップ**・ファイルを、次のオプションを指定して実行します：`-options-template <応答ファイルの完全パス>`。たとえば、Windows では次のコマンド・ラインを実行します：`setup.exe -options-template <応答ファイルの完全パス>`
 - ▶ インストール中にインストール値を記録することによって応答ファイルを作成するには、コマンド・ラインからお使いのプラットフォームの適切な**セットアップ**・ファイルを、次のオプションを指定して実行します：`-options-record <応答ファイルの完全パス>`。たとえば、Windows では次のコマンド・ラインを実行します：`setup.exe -options-record <応答ファイルの完全パス>`
- 3 応答ファイルを使用してサイレント・インストールを実行するには、コマンド・ラインからお使いのプラットフォームの適切な**セットアップ**・ファイルを、次のオプションを指定して実行します：`-silent -options <応答ファイルの完全パス>`。たとえば、Windows では次のコマンド・ラインを実行します：`setup.exe -silent -options <応答ファイルの完全パス>`

第 3 章

Quality Center Starter Edition のインストール

本章では Quality Center Starter Edition のインストール方法を説明します。

本章の内容

- ▶ Quality Center Starter Edition のインストールについて (87 ページ)
- ▶ Quality Center Starter Edition のインストール (88 ページ)

Quality Center Starter Edition のインストールについて

インストール中に、次のコンポーネントがインストールされます：JBoss アプリケーション・サーバ、JBoss Web サーバおよび Microsoft SQL 2005 Express。サーバ・マシンにすでに Microsoft SQL 2005 がインストールされている場合は、データベース管理者名とパスワードを指定すると、既存のインストールを使用できます。

インストール中にはまた、次の Quality Center コンポーネントもインストールされます：

- ▶ **Quality Center Demo Project** : Quality Center を初めて使用する際の学習に役立ちます。HP Quality Center チュートリアルを実行するときには、このデモ・プロジェクトを使用します。
- ▶ **Mercury Tours** : HP Quality Center チュートリアルを実行するにはインストールするときに使用する Web ベースの旅行予約アプリケーションのサンプルです。

Quality Center Starter Edition のインストール

本項では Quality Center Starter Edition のインストール方法を説明します。

Quality Center をインストールする前に、次の点を検討してください。

- ▶ 30 ページ「Quality Center サーバ側の要件」のインストール仕様を満たしていることを確認します。
- ▶ プロジェクトと既存のデータベース・スキーマを Quality Center 10.00 にアップグレードする場合は、50 ページ「プロジェクトとデータベース・スキーマのアップグレード」を参照してください。
- ▶ Quality Center のインストール・プロセスで問題が発生した場合は、付録 A 「Quality Center のインストールに関するトラブルシューティング」でトラブルシューティングのヒントを参照してください。

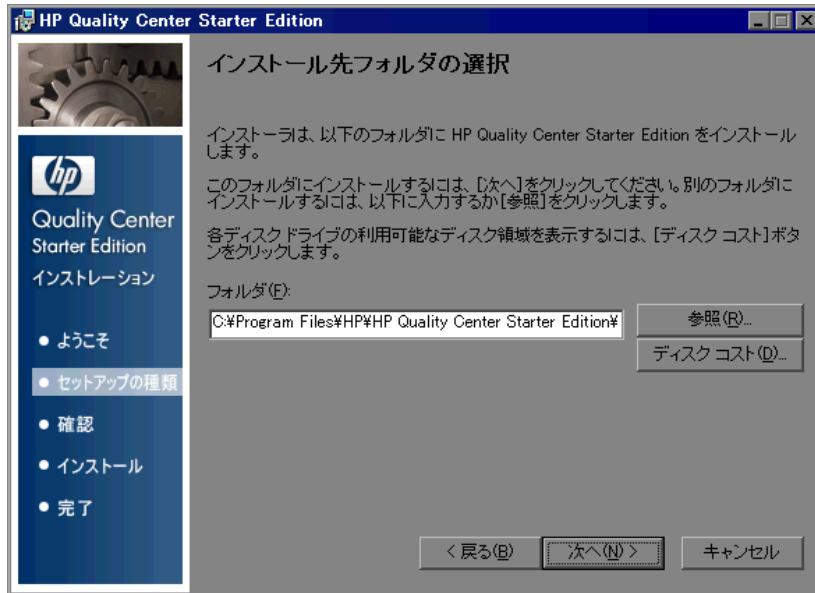
Quality Center Starter Edition をインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 Quality Center の以前のバージョンを使用していた場合は、新しいバージョンをインストールする前に既存のプロジェクトをバックアップします。詳細については、『**HP Quality Center Administrator's Guide**』（英語版）を参照してください。
- 2 Quality Center サーバ・マシンに適切な権限でログインします。必要な権限の一覧については、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」を参照してください。
- 3 Quality Center がマシンにインストールされている場合、これをアンインストールします。詳細については、第 12 章「Quality Center のアンインストール」を参照してください。
- 4 HP Quality Center 10.00 ソフトウェア・インストール DVD を DVD ドライブに挿入し、Starter Edition の **setup.exe** ファイルを実行します。

Quality Center Starter Edition のインストール・ウィザードが起動します。

- 5 [よろこそ] ダイアログ・ボックスが開きます。[次へ] をクリックします。
- 6 [使用許諾契約] ダイアログ・ボックスが開きます。
使用許諾契約をお読みください。使用許諾契約の条件に同意する場合は、[同意する] を選択します。[次へ] をクリックします。
- 7 [ユーザ情報] ダイアログ・ボックスが開きます。[名前] と [組織] を入力します。[次へ] をクリックします。

8 [インストール先フォルダの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center をインストールする場所を指定します。可能な場所を参照するには、[参照] ボタンをクリックし、場所を選択してから [OK] をクリックします。

インストール・ディレクトリに対して必要な権限の詳細については、30 ページ「Quality Center のインストールに必要な権限」を参照してください。

[次へ] をクリックします。

9 [インストールの確認] ダイアログ・ボックスが開きます。

設定を確認または変更する場合は、[戻る] をクリックします。

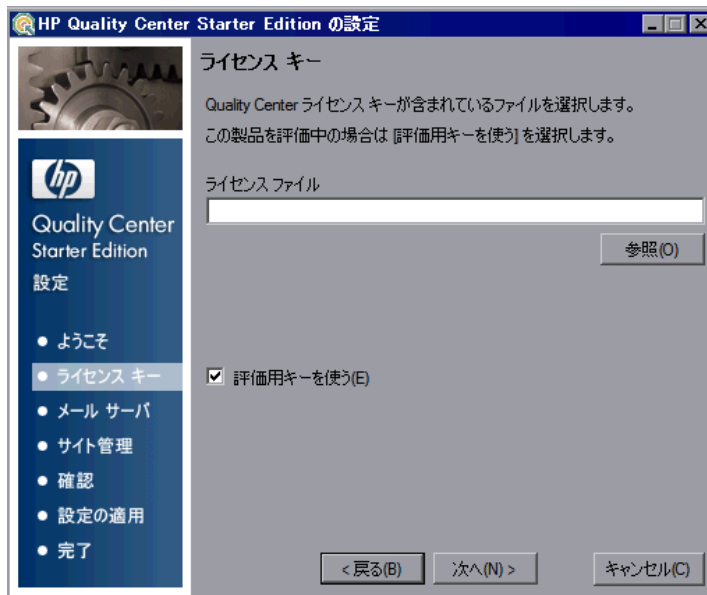
設定を確定してインストール処理を開始するには、[次へ] をクリックします。Quality Center ファイルがサーバ・マシンにインストールされます。

インストール処理が完了すると、[インストールの終了] ダイアログ・ボックスが開きます。[完了] をクリックします。

Quality Center Starter Edition の設定ウィザードが起動します。

10 [ようこそ] ダイアログ・ボックスが開きます。[次へ] をクリックします。

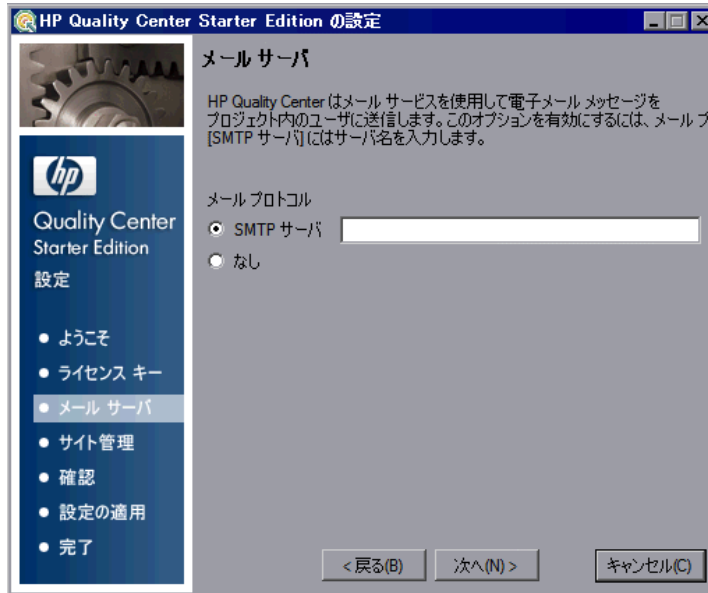
11 [ライセンス キー] ダイアログ・ボックスが開きます。



次のいずれかを選択します。

- ▶ [ライセンス ファイル] の下で、Quality Center ライセンス・ファイルのパスを選択します。
- ▶ ライセンス・ファイルがない場合は、Quality Center Starter Edition の 30 日間の体験版用に [評価用キーを使う] を選択します。
[次へ] をクリックします。

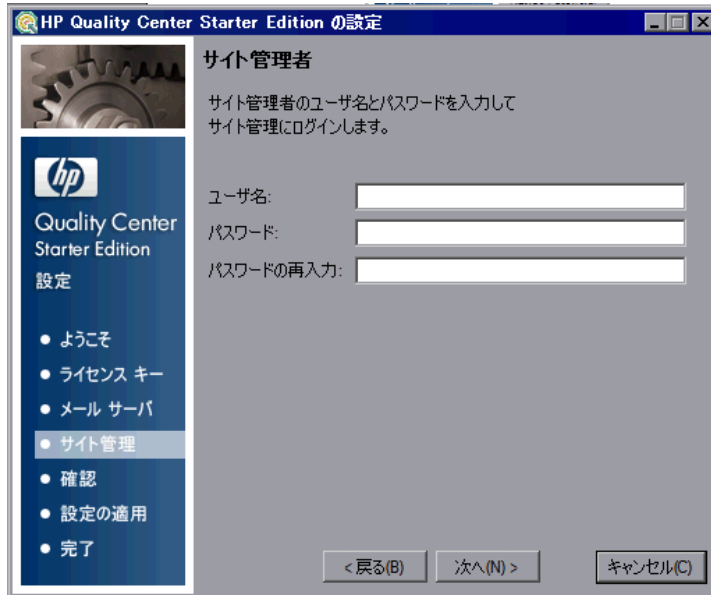
12 [メール サーバ] ダイアログ・ボックスが開きます。



Quality Center から Quality Center プロジェクトに登録されているユーザに電子メールを送信できるようにするには、[SMTP サーバ] にメール・サーバ名を入力します。

[次へ] をクリックします。

- 13 [サイト管理] ダイアログ・ボックスが開きます。



サイト管理者の名前とパスワードは、Quality Center サイト管理に初めてログインする場合に使用します。インストールした後、サイト管理において、サイト管理者の変更や別のサイト管理者の追加を行うことができます。

サイト管理者の [ユーザ名] および [パスワード] を入力し、確認用にもう一度パスワードを入力します。

注： サイト管理者のユーザ名とパスワードを覚えておくことは重要です。忘れると、サイト管理にログインできなくなります。

- 14 [確認] ダイアログ・ボックスが開きます。

設定を確認または変更する場合は、[戻る] をクリックします。

設定を確定してインストール処理を開始するには、[次へ] をクリックします。設定プロセスが開始されます。

- 15 マシンに SQL Server がすでにインストールされている場合は、管理者名とパスワードの入力を求めるプロンプトが表示されます。

- 16 インストール処理が完了すると、[インストールの終了] ダイアログ・ボックスが開きます。**[完了]** をクリックします。
- 17 コンピュータを再起動するように求められた場合、後でコンピュータを再起動することもできますが、Quality Center を設定または使用する前にはコンピュータを再起動する必要があります。なるべく早くコンピュータを再起動することを強くお勧めします。また、統合アドインなどの Quality Center 関連ファイルをインストールする前にもコンピュータを再起動する必要があります。

注：Quality Center を操作するために、Quality Center サーバ・マシン上で動作中の競合するアプリケーションを無効にする必要が生じる場合があります。このようなアプリケーションの一覧については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM176429 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM176429>) を参照してください。

第 4 章

Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ

WebLogic アプリケーション・サーバ上で Quality Center を操作するには、インストール後に Quality Center を手動でデプロイする必要があります。また、パッチをインストールする場合や Quality Center ファイルを更新する場合は、Quality Center のデプロイを手動で解除し、再デプロイする必要もあります。

注：

- ▶ 本章の内容に関する最新情報については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM188675 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM188675>) を参照してください。
- ▶ WebLogic のユーザ名は、Quality Center を再インストールすることなく変更できます。詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM195708 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM195708>) を参照してください。

本章の内容

- ▶ Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ (96 ページ)
- ▶ WebLogic 上にデプロイした Quality Center の手動による解除 (97 ページ)

Quality Center の手動による WebLogic 上へのデプロイ

WebLogic アプリケーション・サーバには、手動で Quality Center をデプロイする必要があります。

Quality Center を手動で WebLogic 上にデプロイするには、次の作業を実行します。

- 1 Quality Center のホーム・ディレクトリに移動し、**¥application** フォルダを開きます。標準設定では、ホーム・ディレクトリは
C:¥Program Files¥HP¥Quality Center (Windows) または
/opt/HP/QualityCenter (Solaris, Linux, AIX および HP-UX) です。
- 2 **mtours1.war** ファイルと **qcbn.war** ファイルを < **WebLogic ホーム** > **/server** または < **WebLogic ドメイン・ホーム** > **/servers** ディレクトリにコピーします。

注 : **mtours1.war** ファイルは、Mercury Tours をインストールした場合にのみ存在します。

- 3 **mtours1.war** の名前を **mtours.war** に変更します。
- 4 WebLogic ドメインで **Admin Server** を起動します。
- 5 WebLogic Server Administration Console にログインします。標準設定では、このアドレスは **http:// < WebLogic サーバ・マシン名 > :7001/console** です。次の手順を実行します：
 - a [**ロックして編集**] をクリックします。
 - b コンソールの左側の表示枠で、[**デプロイメント**] ノードをクリックします。
 - c 右側の表示枠で、[**インストール**] をクリックします。
 - d [**アプリケーションインストールアシスタント**] で、
[**場所** : < **WebLogic マシン名** >] をクリックします。
 - e < **WebLogic ホーム** > **/server** または < **WebLogic ドメイン・ホーム** > **/servers** ディレクトリへ移動し、**qcbn.war** ファイルを選択します。
 - f [**次へ**] をクリックします。
 - g [**このデプロイメントをアプリケーションとしてインストールする**] を選択し、[**次へ**] をクリックします。

- h [省略可能な設定] ページで、デプロイメントの名前が **qcbin**、であることを確認し、[次へ] をクリックします。
 - i [完了] をクリックします。
 - j [変更のアクティブ化] をクリックします。
 - k [デプロイメント] ノードをクリックします。
 - l **qcbin** Web アプリケーションを選択し、[起動] > [すべての要求を処理] を選択します。
 - m 同様の操作で **mtours.war** もデプロイします。
- 6 デプロイメント・プロセスが終了したら、Quality Center を起動します。詳細については、「Quality Center の起動」を参照してください。

WebLogic 上にデプロイした Quality Center の手動による解除

パッチをインストールする場合や、qcbin.war ファイルを更新する場合は、変更が Quality Center に反映されるように、これらの war ファイルのデプロイを解除して再デプロイする必要があります。

Quality Center の WebLogic 上へのデプロイを手動で解除するには、次の作業を実行します。

- 1 WebLogic Server Administration Console にログインします。標準設定では、このアドレスは **http:// < WebLogic サーバ・マシン名 > :7001/console** です。次の手順を実行します：
 - a [ロックして変更] をクリックします。
 - b コンソールの左側の表示枠で、[デプロイメント] ノードをクリックします。
 - c **qcbin** Web アプリケーションを選択し、[停止] をクリックします。
 - d **qcbin** Web アプリケーションを選択し、[削除] をクリックします。
 - e 続行する場合は [はい] ボタンをクリックします。
 - f [変更のアクティブ化] をクリックします。
 - g 同様の操作で **mtours.war** のデプロイも解除します。

- 2 < WebLogic ホーム > /server または < WebLogic ドメイン・ホーム > /servers ディレクトリから war ファイルを削除します。

重要 : ~~¥~~application ディレクトリ内のサブディレクトリは削除しないでください。これらのサブディレクトリは Quality Center のパッチや拡張に必要です。

第 5 章

Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ

WebSphere アプリケーション・サーバ上で Quality Center を操作するには、インストール後に Quality Center を手動でデプロイする必要があります。また、パッチをインストールする場合や Quality Center ファイルを更新する場合は、Quality Center のデプロイを手動で解除し、再デプロイする必要もあります。

注：本章の内容に関する最新情報については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM191173 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM191173>) を参照してください。

本章の内容

- ▶ Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ (100 ページ)
- ▶ WebSphere 上にデプロイした Quality Center の手動による解除 (102 ページ)

Quality Center の手動による WebSphere 上へのデプロイ

WebSphere アプリケーション・サーバには、手動で Quality Center をデプロイする必要があります。

注： WebSphere アプリケーション・サーバの標準最大アップロード・ファイル・サイズを確認してください。 **qcbn.war** ファイルのサイズが標準のファイル・サイズよりも大きい場合は、それに応じて標準最大アップロード・ファイル・サイズを大きくする必要があります。

Quality Center を手動で WebSphere 上にデプロイするには、次の作業を実行します。

- 1 **mtours1.war** の名前を **mtours.war** に変更します。
- 2 WebSphere アプリケーション・サーバを起動します。
- 3 WebSphere 管理コンソールを起動し、次に示す手順に従って Quality Center **qcbn.war** および **mtours.war** ファイルをデプロイします。
 - a 管理コンソールで、[アプリケーション] > [新規アプリケーションのインストール] を選択します。
 - b Quality Center のインストール時に作成された **qcbn.war** ファイルのローカル・パスを入力します。例を次に示します。
C:¥Program Files¥HP¥Quality Center¥application¥qcbn.war
 - c Web モジュールのコンテキスト・ルートとして「**qcbn**」を入力し、[次へ] をクリックします。
 - d 続いて表示される各種の画面で、標準のオプションを選択し、最後の画面まで [次へ] をクリックして進みます。[終了] をクリックします。
 - e デプロイメントが完了したら、[マスター構成に保管] をクリックし、さらに [保管] をクリックします。

f 同様の操作で **mtours.war** もデプロイします。

注： **mtours1.war** ファイルは、Mercury Tours をインストールした場合にのみ存在します。

- 4 次のとおり、**qcbn.war** および **mtours.war** ファイルの Web アプリケーション・クラス・ローダーを設定します。
 - a **[アプリケーション]** > **[エンタープライズ・アプリケーション]** > **[qcbn_war]** を選択します。
 - b **[ローカル・トポロジー]** タブをクリックし、**[qcbn_war]** > **[Web モジュール]** > **[qcbn.war]** を選択します。
 - c **[クラス・ローダー]** を **[PARENT_LAST]** に設定します。**[OK]** をクリックします。
 - d **[保管]** リンクをクリックします。
 - e **[保管]** ボタンをクリックします。
 - f **mtours.war** に対しても同様の操作を繰り返します。
- 5 WebSphere アプリケーション・サーバをいったん停止して再起動します。
- 6 **[アプリケーション]** > **[エンタープライズ・アプリケーション]** から、デプロイしたアプリケーション（サイト管理および Quality Center）を起動します。
- 7 デプロイメント・プロセスが終了したら、Quality Center を起動します。詳細については、112 ページ「Quality Center の起動」を参照してください。

WebSphere 上にデプロイした Quality Center の手動による解除

パッチをインストールする場合や、**qcbn.war** ファイルを更新する場合は、変更が Quality Center に反映されるように、これらの war ファイルのデプロイを解除して再デプロイする必要があります。

Quality Center の WebSphere 上へのデプロイを手動で解除するには、次の作業を実行します。

- 1 WebSphere アプリケーション・サーバを起動します。
- 2 WebSphere 管理コンソールを起動し、次に示す手順に従って war ファイルのデプロイを解除します。
 - a 管理コンソールで、[アプリケーション] > [エンタープライズ・アプリケーション] を選択します。
 - b [qcbn.war] を選択し、[停止] をクリックします。
 - c qcbn.war を選択して、[アンインストール] をクリックします。

第 6 章

手動による JBoss と Apache の統合

Quality Center を Apache Web サーバで使用するには、要求が JBoss アプリケーション・サーバにリダイレクトされるよう手動で Apache Web サーバを設定する必要があります。

本章の内容

- ▶ 手動による JBoss と Apache の統合について (103 ページ)
- ▶ JBoss と Apache の統合 (Windows) (104 ページ)
- ▶ JBoss と Apache の統合 (Windows 以外のプラットフォーム) (105 ページ)
- ▶ Apache と JBoss の統合設定ファイル (106 ページ)

手動による JBoss と Apache の統合について

Quality Center のインストール時、要求が JBoss アプリケーション・サーバにリダイレクトされるよう Apache を設定する作業は自動的にには行われません。この設定は手作業で実行する必要があります。Quality Center インストール DVD には、Windows, Solaris, Linux, AIX および HP-UX プラットフォーム上で Apache と JBoss を統合するための設定に必要なすべてのファイルが収録されています。

Apache Web サーバにより処理されるすべての要求は、Tomcat サーバ (JBoss に付属のサーブレット・コンテナ) にリダイレクトされます。Apache と JBoss との通信は、AJP13 プロトコルおよび適切なコネクタ (**mod_jk**) を使用して実装されています。

JBossとApacheの統合（Windows）

Windowsの場合、JBossとApache Webサーバとの統合は、手動で設定する必要があります。

JBossとApacheとを統合するには次の手順を実行します。

- 1 JBossをアプリケーション・サーバおよびWebサーバに指定して、Quality Centerをインストールします。
- 2 Apache Webサーバをインストールします。
- 3 < Apache ホーム・ディレクトリ > %conf ディレクトリに移動します。
- 4 Quality Center DVDの **ApacheIntegration%windows** に移動します。
qc_integration フォルダが表示されます。
- 5 **qc_integration** フォルダとその内容を < Apache ホーム・ディレクトリ > %conf ディレクトリにコピーします。
- 6 お使いのApache Webサーバのバージョンと互換性のある **mod_jk.so** モジュールを <http://tomcat.apache.org/download-connectors.cgi> からダウンロードして、< Apache ホーム・ディレクトリ > %conf%qc_integration ディレクトリにコピーします。
- 7 **mod_jk** モジュールの名前を **mod_jk.so** に変更します。たとえば、**mod_jk-1.2.27-httpd-2.2.10.so** をダウンロードした場合は、**mod_jk.so** という名前に変更します。
- 8 < Apache ホーム・ディレクトリ > %conf にある **httpd.conf** ファイルに、次に示す行を追加します。

```
#Quality Center 統合 : Jboss-Apache 設定ファイル (Quality Center 用) を読み込む
#mod_jk モジュールをロードする
LoadModule jk_module conf%qc_integration%mod_jk.so
Include conf%qc_integration%mod_jk.conf
```

- 9 Apache Webサーバを再起動します。

以上により、Quality Center サイトに URL `http:// < Quality Center サーバ名 > : < ポート番号 > /qcbn`

ApacheとJbossを統合する設定ファイルの詳細については、「ApacheとJBossの統合設定ファイル」を参照してください。

JBoss と Apache の統合（Windows 以外のプラットフォーム）

Linux, Solaris, AIX または HP-UX 版の JBoss と Apache Web サーバとの統合は、手動で設定する必要があります。

Linux, Solaris, AIX または HP-UX の場合, JBoss と Apache とを統合するには次の手順を実行します。

- 1 JBoss をアプリケーション・サーバおよび Web サーバに指定して、Quality Center をインストールします。
- 2 Apache Web サーバをインストールします。
- 3 < **Apache ホーム・ディレクトリ** > /conf ディレクトリに移動します。
- 4 Quality Center DVD の **ApacheIntegration/linux-solaris-aix-hpux** に移動します。 **qc_integration フォルダ**が表示されます。
- 5 **qc_integration** フォルダとその内容を < **Apache ホーム・ディレクトリ** > /conf ディレクトリにコピーします。
- 6 お使いの Apache Web サーバのバージョンと互換性のある **mod_jk.so** モジュールを <http://tomcat.apache.org/download-connectors.cgi> からダウンロードして、< **Apache ホーム・ディレクトリ** > /conf/qc_integration ディレクトリにコピーします。
- 7 **mod_jk** モジュールの名前を **mod_jk.so** に変更します。たとえば、**mod_jk-1.2.27-httpd-2.2.10.so** をダウンロードした場合は、**mod_jk.so** という名前に変更します。
- 8 < **Apache ホーム・ディレクトリ** > /conf にある **httpd.conf** ファイルに、次に示す行を追加します。

```
#Quality Center 統合 : Jboss-Apache 設定ファイル
# (Quality Center 用) を読み込む
#mod_jk モジュールをロードする
LoadModule jk_module conf/qc_integration/mod_jk.so
Include conf/qc_integration/mod_jk.conf
```

- 9 Apache Web サーバを再起動します。

以上により、Quality Center サイトに URL `http:// < Quality Center サーバ名 > : < ポート番号 > /qcbn`

Apache と Jboss を統合する設定ファイルの詳細については、「Apache と JBoss の統合設定ファイル」を参照してください。

Apache と JBoss の統合設定ファイル

Apache と JBoss の統合に関連するファイルは次のとおりです。

- ▶ **mod_jk.so** : このファイルは、Apache Web サーバと、JBoss に付属の Tomcat コンポーネントとを接続するコネクタです。
- ▶ **httpd.conf** : このファイルは、Apache Web サーバ用の設定ファイルです。

JBoss と Apache を統合すると、次の行がファイルに表示されます。

Windows の場合

```
LoadModule jk_module conf\qc_integration\mod_jk.so
Include conf\qc_integration\mod_jk.conf
```

Linux, Solaris, AIX, HP-UX の場合

```
LoadModule jk_module conf/qc_integration/mod_jk.so
Include conf/qc_integration/mod_jk.conf
```

- ▶ **workers.properties** : このファイルでは、Web サーバ（この場合 Apache）の代わりに要求を処理するため待機する Tomcat インスタンスを定義します。

このファイルの内容により、Quality Center への要求を処理するワーカーが定義されます（この場合、ワーカーの名前は jboss0_ajp13_qc）。

```
# 名前が jboss0_ajp13_qc, タイプが ajp13 のワーカーを定義する
# 名前とタイプはこのとおりである必要はない。
worker.list=jboss0_ajp13_qc
worker.jboss0_ajp13_qc.port=8009
worker.jboss0_ajp13_qc.type=ajp13
worker.jboss0_ajp13_qc.host=localhost
worker.jboss0_ajp13_qc.lbfactor=50
worker.jboss0_ajp13_qc.cachesize=10
worker.jboss0_ajp13_qc.cache_timeout=600
worker.jboss0_ajp13_qc.socket_keepalive=1
worker.jboss0_ajp13_qc.socket_timeout=300
```

- ▶ **mod_jk.conf** : この設定ファイルには、どの要求を Apache から Tomcat インスタンスにリダイレクトするかについての情報が含まれます。また、**workers.properties** ファイルのパスや設定全般に関する情報も含まれています。

Windows の場合

```
# workers.properties ファイルの場所
# 実際の conf ディレクトリの場所に合わせてこのパスを変更する
# (workers.properties は httpd.conf と同じ場所に置く)
JkWorkersFile conf%qc_integration%workers.properties
# jk ログを作成する場所
# 実際の logs ディレクトリの場所に合わせてこのパスを変更する
# (mod_jk.log は access_log と同じ場所に置く)
JkLogFile conf%qc_integration%log%mod_jk.log
# jk ログ・レベルの設定 [debug/error/info]
JkLogLevel info
# ログ形式の選択
JkLogStampFormat "[%a %b %d %H:%M:%S %Y]"
# JkOptions は SSL KEY SIZE を送信するように設定
JkOptions +ForwardKeySize +ForwardURICompat -ForwardDirectories
# tomcat でフラッシュされたかに関係なく応答出力ストリームをフラッシュするように命令
JkOptions +FlushPackets
# JkRequestLogFormat では要求の形式を設定
# JkRequestLogFormat "%w %V %T"
# /examples コンテキストの要求すべてを worker1 (ajp13) ワーカーに送信
JkMount /memory jboss0_ajp13_qc
JkMount /memory/* jboss0_ajp13_qc
JkMount /jk jboss0_ajp13_qc
JkMount /jk/* jboss0_ajp13_qc
JkMount /qcbn jboss0_ajp13_qc
JkMount /qcbn/* jboss0_ajp13_qc
```

Linux, Solaris, AIX, HP-UX の場合

```
# workers.properties ファイルの場所
# 実際の conf ディレクトリの場所に合わせてこのパスを変更する
# (workers.properties は httpd.conf と同じ場所に置く)
JkWorkersFile conf/qc_integration/workers.properties
# jk ログを作成する場所
# 実際の logs ディレクトリの場所に合わせてこのパスを変更する
# (mod_jk.log は access_log と同じ場所に置く)
JkLogFile conf/qc_integration/log/mod_jk.log
# jk ログ・レベルの設定 [debug/error/info]
JkLogLevel info
# ログ形式の選択
JkLogStampFormat "[%a %b %d %H:%M:%S %Y]"
# JkOptions は SSL KEY SIZE を送信するように設定
JkOptions +ForwardKeySize +ForwardURICompat -ForwardDirectories
# tomcat でフラッシュされたかに関係なく応答出カストリームをフラッシュするように命令
JkOptions +FlushPackets
# JkRequestLogFormat では要求の形式を設定
# JkRequestLogFormat "%w %V %T"
# /examples コンテキストの要求すべてを worker1 (ajp13) ワーカーに送信
JkMount /memory jboss0_ajp13_qc
JkMount /memory/* jboss0_ajp13_qc
JkMount /jk jboss0_ajp13_qc
JkMount /jk/* jboss0_ajp13_qc
JkMount /qcbn jboss0_ajp13_qc
JkMount /qcbn/* jboss0_ajp13_qc
```

第7章

作業の開始

本章では、Quality Center のオプションとリソースを紹介します。また、Quality Center の起動方法も説明します。

本章の内容

- ▶ Quality Center プログラム・フォルダについて (109 ページ)
- ▶ Quality Center サービスの開始と停止 (110 ページ)
- ▶ Quality Center の起動 (112 ページ)

Quality Center プログラム・フォルダについて

Windows では、Quality Center セットアップ・プロセスが完了すると、次の項目が HP Quality Center プログラム・フォルダに追加されます ([スタート] メニューから開く [HP Quality Center] プログラム・グループ)。

オプション	説明
[Documentation Library]	Quality Center のガイドおよびリファレンスにアクセスできる、オンライン・ヘルプ・システムを開きます。これらはオンライン、PDF 形式、またはその両方で使用できます。
[HP Quality Center]	Quality Center アプリケーションを開きます。詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

オプション	説明
[Mercury Tours デモ]	<p>サンプルのフライト予約 Web アプリケーションを起動します。この Web アプリケーションは、Quality Center のチュートリアル基礎として使用されます。詳細については、『HP Quality Center チュートリアル』を参照してください。</p> <p>注：このアプリケーションは、Quality Center のインストール時に選択した場合にのみ使用できます。</p>
[Readme]	<p>Quality Center に関する最新のお知らせや情報が記載されている、「Quality Center 最初にお読みください」を開きます。</p>
[Site Administration]	<p>サイト管理アプリケーションを開きます。詳細については、『HP Quality Center Administrator's Guide』（英語版）を参照してください。</p>

注：JBoss 以外のアプリケーション・サーバを使用している場合、プログラム・フォルダには [HP Quality Center] および [Mercury Tours デモ] のみ表示されます。

Quality Center サービスの開始と停止

本項では、Windows, Linux, Solaris, AIX および HP-UX からの Quality Center サービスの開始と停止方法について説明します。

Windows から Quality Center サービスを開始または停止するには、次の手順を実行します。



システム・トレイで、Quality Center アイコンを右クリックし、[Start Quality Center] または [Stop Quality Center] を選択します。

ヒント : JBoss を使用している場合は、サービス・マネージャの [HP Quality Center] サービスから Quality Center を開始および停止することもできます。

Linux, Solaris, AIX または HP-UX から Quality Center サービスを開始または停止するには、次の手順を実行します。

- ▶ JBoss を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

開始 :	< QC インストール・ディレクトリ > /jboss/bin/run.sh start
停止 :	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ < QC インストール・ディレクトリ > /jboss/bin/run.sh stop (またはコンソールで Ctrl+C キーを押す) ▶ kill < JBoss プロセス ID >

- ▶ WebLogic を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

開始 :	< WebLogic インストール・ディレクトリ > /user_projects/domains/ < QC ドメイン名 > /startWeblogic.sh
停止 :	次のいずれかを使用します。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ < WebLogic インストール・ディレクトリ > /user_projects/domains/ < QC ドメイン名 > /stopWeblogic.sh ▶ kill < Weblogic プロセス ID >

- ▶ WebSphere を使用している場合は、次のコマンドを実行します。

開始 :	< WebSphere インストール・ディレクトリ > /WebSphere/AppServer/bin/startServer.sh < WebSphere サーバ名 >
停止 :	< WebSphere インストール・ディレクトリ > /WebSphere/AppServer/bin/stopServer.sh < WebSphere サーバ名 >

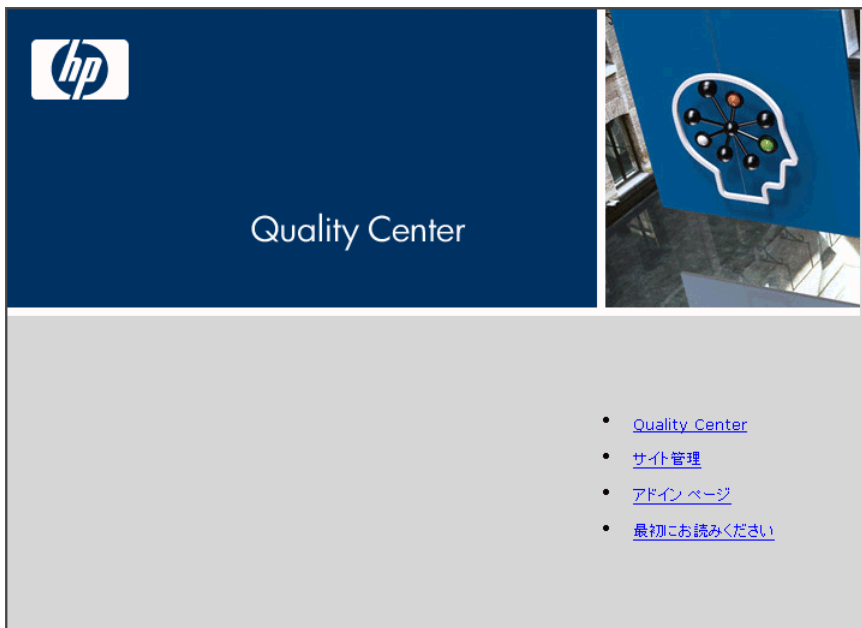
Quality Center の起動

Quality Center は、ワークステーション上の Web ブラウザから起動します。

注：1つのブラウザ・プロセスから複数の Quality Center インスタンスを起動する使用法はサポートされていません。追加の Quality Center インスタンスを開くには、新しいブラウザ・プロセスを起動する必要があります。

Quality Center を起動するには、次の手順を実行します。

- 1 お使いの Web ブラウザを起動し、Quality Center の URL として、「`http:// <Quality Center サーバ名> [: <ポート番号>]/qcbin`」を入力します。
[Quality Center オプション] ウィンドウが開きます。



Quality Center オプション・ウィンドウには、次のリンクがあります。

オプション	説明
[Quality Center]	Quality Center アプリケーションを開きます。詳細については、『HP Quality Center ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[サイト管理]	サイト管理アプリケーションを開きます。詳細については、『HP Quality Center Administrator's Guide』（英語版）を参照してください。
[アドイン ページ]	Quality Center アドイン・ページを開きます。詳細については、117 ページ「Quality Center アドインのインストール」を参照してください。
[最初にお読みください]	Quality Center に関する最新のお知らせや情報が記載されている、「Quality Center 最初にお読みください」を開きます。

- 2 [Quality Center] リンクをクリックします。Quality Center が実行されるたびに、バージョン確認が行われます。新しいバージョンが検出されると、必要なファイルの最新バージョンがマシンにダウンロードされます。

注：まだマシンに Microsoft .NET Framework 2.0 がインストールされていない場合は、.NET Framework 2.0 のインストールを促すメッセージが Quality Center により表示されます。インストールを実行するには、ソフトウェア更新のインストール・ウィザード（Windows Installer 3.1 がインストールされていない場合）および Microsoft .NET Framework 2.0 セットアップの手順に従って操作します。

Quality Center のバージョンが確認され、必要に応じてファイルが更新されると、Quality Center のログイン・ウィンドウが表示されます。



The image shows the Quality Center login interface. On the left, there is a blue banner with the HP logo and the text "Quality Center". On the right, there is a photograph of a blue sign with a white outline of a head containing a network diagram. Below the banner, the login form is displayed on a light gray background. It includes the following fields and controls:

- ログイン名: [Text input field]
- パスワード: [Text input field]
- このマシンで最後に使用したドメインとプロジェクトに自動的にログインする
- 認証 [認証ボタン] [パスワードを忘れた場合](#)
- ドメイン: [Dropdown menu]
- プロジェクト: [Dropdown menu]
- ログイン [ログインボタン]

- 3 [ログイン名] ボックスに、ユーザ名を入力します。
- 4 [パスワード] ボックスにパスワードを入力します。
- 5 前回作業していたプロジェクトに Quality Center が自動的にログインするようにするには、[このマシンで最後に使用したドメインとプロジェクトに自動的にログインする] チェック・ボックスを選択します。
- 6 [認証] をクリックします。Quality Center によりユーザ名およびパスワードが確認され、ユーザがアクセス可能なドメインおよびプロジェクトが決定されます。自動ログインを指定している場合は、Quality Center が開きます。

認証が失敗した場合は、ユーザ名とパスワードが正しいことを確認し、再度実行します。

7 [ドメイン] リストからドメインを選択します。標準設定では、前回作業していたドメインが表示されます。

8 [プロジェクト] リストからプロジェクトを選択します。標準設定では、前回作業していたプロジェクトが表示されます。

Quality Center のデモ・プロジェクトが Quality Center サーバにインストールされている場合、**QualityCenter_Demo** プロジェクトを選択できます ([ドメイン] リストで **DEFAULT** を選択している必要があります)。このプロジェクトで Quality Center モジュールについて学ぶことができます。詳細については、『**HP Quality Center チュートリアル**』を参照してください。

9 [ログイン] をクリックします。Quality Center が開き、前回のセッションで最後に使用していたモジュールが表示されます。

第 8 章

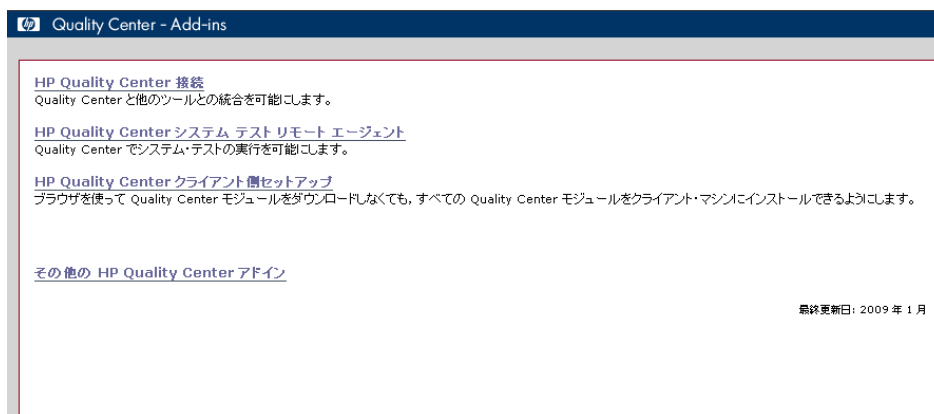
Quality Center アドインのインストール

Quality Center は HP 製ツールやサードパーティ製ツールとの統合および同期化ソリューションを提供しています。Quality Center とほかのツールを統合するには、Quality Center の [アドイン ページ] から適切なアドインをインストールする必要がある場合があります。

注： Quality Center をほかのツールと統合して使用する際には、対象ツールのバージョンがサポート対象かどうかを確認できます。[アドイン] ページで [その他の Quality Center アドイン] リンクをクリックし、適切な Quality Center 統合マトリックスを選択します。

Quality Center アドインをインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 Quality Center のオプション・ウィンドウで [アドイン ページ] をクリックするか、Quality Center のメイン・ウィンドウで [ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択します。[Quality Center アドイン] ページが開きます。



次の Quality Center アドインが使用できます。

- ▶ **[HP Quality Center 接続]** : Quality Center と他のツールとの統合を可能にします。
 - ▶ **[HP Quality Center システム テストのリモート エージェント]** : マシン上でシステム・テストを実行できるようにします。システム・テストでは、マシンのシステム情報の取得、マシンにおけるテスト実行状態のデスクトップ画像の閲覧、およびマシンの再起動を実行できます。
 - ▶ **[HP Quality Center クライアント側セットアップ]** : すべての Quality Center モジュールをクライアント・マシンにインストールできるようにし、ブラウザによる Quality Center コンポーネントのダウンロードを不要にします。
 - ▶ **[その他の HP Quality Center アドイン]** : 追加のアドインをインストールできます。このページは、HP によって絶えず更新されています。HP 製ツールやサードパーティ製ツールとの統合および同期化ソリューションが提供されています。
- 2 アドイン・リンクをクリックします。クリックしたアドインに関する追加情報のページが表示されます。[その他の Quality Center アドイン] リンクをクリックすると、[その他の Quality Center アドイン] ページが表示され、追加するアドインを選択できます。
 - 3 アドインの使用方法については、アドイン・ガイド・リンクがある場合はこれをクリックしてください。
 - 4 **[アドインをダウンロード]** リンクをクリックして、アドインをダウンロードおよびインストールします。画面上の指示に従います。

第 9 章

IIS の設定の確認

Windows に Quality Center をインストールした後で、IIS (Internet Information Server) コンポーネントに問題が生じた場合は、IIS の設定を確認します。

本章の内容

- ▶ IIS アカウント設定 (119 ページ)
- ▶ Quality Center 仮想ディレクトリの設定 (121 ページ)

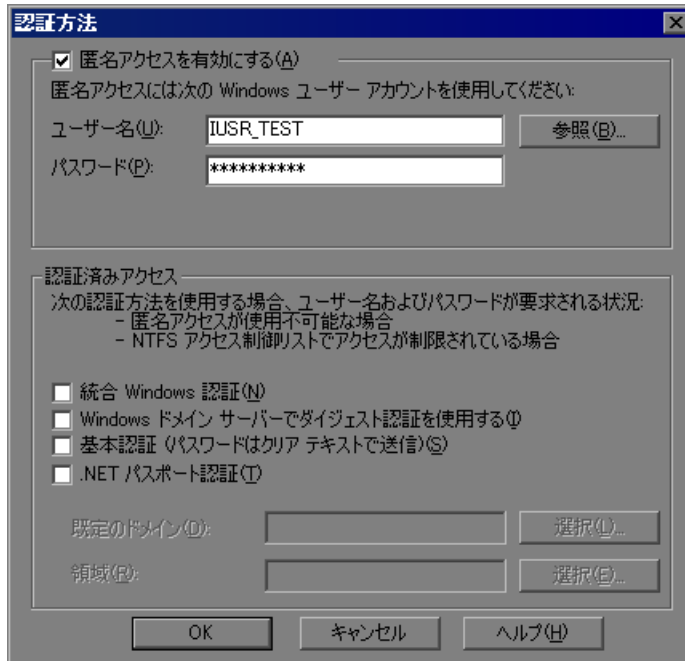
IIS アカウント設定

Quality Center をインストールすると、IUSR_<コンピュータ名>というアカウントが作成されます。ユーザが Quality Center を起動すると、IIS では、このアカウントを使用してユーザが IIS から Quality Center へリダイレクトされます。

IIS アカウントを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウが開きます。
- 2 左の表示枠にあるツリーから、Quality Center 仮想ディレクトリのある場所を選択します (必要に応じて、ツリーを展開します)。この仮想ディレクトリは、Quality Center のインストール時に選択された IIS Web サイトです (たとえば、**既定の Web サイト**)。詳細については、第 2 章「Quality Center のインストール」を参照してください。
- 3 Quality Center 仮想ディレクトリ (標準設定では **quality_center**) を右クリックし、[プロパティ] をクリックします。[quality_center のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。

- 4 [ディレクトリ セキュリティ] タブをクリックします。
- 5 [匿名アクセスおよび認証コントロール] セクションで、[編集] ボタンをクリックします。[認証方法] ダイアログ・ボックスが開きます。



[認証方法] ダイアログ・ボックスには、IIS がユーザ・アクセスを認証するのに使用するユーザ・アカウントを設定する 3 つの方法が表示されます。[匿名アクセス]、[基本認証] および [統合 Windows 認証] という 3 つの方法です。

▶ [匿名アクセス] :

[匿名アクセス] を選択すると、ユーザが < Quality Center サーバ > ¥qcbn にログインしたときに、IIS から Quality Center へ接続がリダイレクトされます。

このアカウントを確認または変更するには、[匿名アクセス] セクションの [編集] ボタンをクリックします。IIS 匿名アクセスのユーザ・アカウントは IUSR_ <コンピュータ名 > です。

▶ **[基本認証] :**

[基本認証] を選択すると、ユーザが < Quality Center サーバ > %qcbn にログインしたときに、IIS は Windows のドメインに基づいてユーザを認証します。

基本認証用の Windows ドメインを確認するには、[基本認証] チェック・ボックスをオンにし、[はい] をクリックして確定します。次に、[基本認証] セクションの [編集] ボタンをクリックします。[基本認証ドメイン] ダイアログ・ボックスが開きます。[ドメイン名] ボックスにドメイン名が定義されている場合は、クライアントは当該ドメインに属する任意のユーザ・アカウントを使用して IIS にアクセスできます。ドメインが定義されていない場合には、ローカル・ドメインが使用され、クライアントは、任意のローカル・ユーザ・アカウントを使用して IIS にアクセスできます。

基本認証が選択されている場合、ユーザ・アカウントは、暗号化せずに Web ブラウザからネットワークを通じて送信されます。

▶ **[統合 Windows 認証] :**

統合 Windows 認証方式は、イントラネット環境に最適です。IIS は、Windows ドメインに基づいてユーザ認証をするのに、クライアント・マシンの現在の Windows ユーザ情報を使用します。

Quality Center 仮想ディレクトリの設定

標準設定の仮想ディレクトリが正しく設定されていることを確認します（標準設定では **quality_center** です）。

Quality Center 仮想フォルダの設定を確認するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウが開きます。
- 2 左の表示枠にあるツリーから、Quality Center 仮想ディレクトリのある場所を選択します（必要に応じて、ツリーを展開します）。この仮想ディレクトリは、Quality Center のインストール時に選択された IIS Web サイトです（たとえば、**既定の Web サイト**）。詳細については、第2章「Quality Center のインストール」を参照してください。

- 3 Quality Center 仮想ディレクトリ（標準設定では **quality_center**）を右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。[quality_center のプロパティ] ダイアログ・ボックスが開きます。**[仮想ディレクトリ]** タブで、次のオプションが設定されていることを確認します。
 - ▶ **[読み取り]** が選択されている。
 - ▶ **[スクリプト ソース アクセス]**, **[書き込み]**, **[ディレクトリの参照]** がクリアされている。
 - ▶ **[アプリケーション名]** ボックスが有効になっていて、**[削除]** ボタンが表示されている。
 - ▶ **[実行アクセス権]** リストで **[スクリプトおよび実行可能ファイル]** が選択されている。
 - ▶ **[アプリケーション保護]** リストで **[DefaultAppPool]** が選択されている。
- 4 **[OK]** をクリックして、[quality_center のプロパティ] ダイアログ・ボックスを閉じます。

第 10 章

Quality Center のカスタマイズ

Quality Center サーバ・マシンに格納されている **QCClient.UI.Ax.dll.config** ファイルを編集することで、Quality Center モジュールの名前と、[ツール] メニューおよび [ヘルプ] メニューをカスタマイズできます。

Quality Center をカスタマイズするには、次の手順を実行します。

- 1 サーバ・マシンで、**Client.cab** から **QCClient.UI.Ax.dll.config** ファイルを開きます。このファイルは、次の場所にあります。
 - ▶ **JBoss** : [インストール・ディレクトリ]¥[サーバ]¥server¥default¥deploy¥20qcbn.war ファイル内 (war ファイルを展開すると、**Client.cab** ファイルは ¥Install ディレクトリの下にあります)。
 - ▶ **JBoss 以外** : 初期設定ではアプリケーション・ディレクトリにあります。ファイルはこのディレクトリから別の場所に移動できます。
- 2 **QCClient.UI.Ax.dll.config** ファイル (.xml 形式) を開きます。
- 3 Quality Center モジュールの削除や並べ替えを実行するには、ファイル内の < Modules >セクションで、必要に応じて選択したモジュール・セクションを削除または移動します。

注 : モジュール名をカスタマイズするには、サイト管理の [サイト設定] タブで **REPLACE_TITLE** パラメータを追加します。詳細については、『**HP Quality Center Administrator’s Guide**』(英語版)を参照してください。

- 4 [ツール] メニューの [ドキュメント ジェネレータ] 項目を変更または削除できます。これはファイルの [Tools] セクションで定義されます。また、同じセクションで [ツール] メニューに新しい項目を追加することもできます。

Tools 行のエントリの構文は次のとおりです。

```
<TDFrame
  Tools=" <ツール名> ,{ <ツール ID > }"
  Workflow="{ <ワークフロー ID > }"
  Parameters=" <パラメータ> "
/>
```

- 5 [ヘルプ] メニューに表示される項目のリストの変更、削除、または並べ替えを行うには、OnlineHelpItem 行にリストされている標準の名前、ID および URL を変更します。OnlineHelpItem 行のエントリの構文は次のとおりです。

```
< OnlineHelpItem ID=" <ヘルプ ID > " Name=" <ヘルプ名> " Url=" <ヘルプ URL > "
```

[ヘルプ] メニューの 2 つの項目の間に区切り線を作成する構文は次のとおりです。

```
< OnlineHelpItem ID=" <ヘルプ ID > " Name=" <ヘルプ名> " Url=" <ヘルプ URL > " IsFirstInGroup="true" / >
```

注：[ヘルプ] メニューの最初の 2 つのメニュー項目 [このページのヘルプ]、[文書ライブラリ] と、最後のメニュー項目 [HP Quality Center ソフトウェアのバージョン情報] の移動や変更はできません。QCClient.UI.Ax.dll.config ファイルには、これらに対応するエントリはありません。上記の手順は、これらの間にあるメニュー項目だけを対象とします。

- 6 Client.cab ファイルを、Client という一時フォルダ内に解凍します。このフォルダは一時フォルダ内にある必要があります (たとえば、C:\temp\Client)。
- 7 QCClient.UI.Ax.dll.config ファイルを、変更後のファイルで置き換えます。

- 8 次のコマンドを実行して、一時フォルダを論理ドライブ（たとえば X ドライブ）にします。

```
subst [X]: <一時フォルダ>
```

たとえば、「subst X: C:¥temp」のように実行します。

- 9 次のコマンドで、**Client.cab** ファイルを新規作成します。

```
cabarc -r -p -P Client¥ -s 6144 N <一時フォルダ> ¥Client.cab X:¥Client¥*.*
```

注： このコマンドを使用するには、Microsoft ダウンロード・センターから **cabsdk.exe**（Cabinet Software Development Kit）をダウンロードする必要があります。

- 10 作成した **Client.cab** ファイルに、クラス 3 デジタル署名を追加します。

注： デジタル署名は、信頼されたプロバイダの署名でなければなりません。

- 11 古い cab ファイルを、作成したファイルで置き換えます。
- 12 war ファイルを再ビルドします。
- 13 war ファイルを再デプロイします。再デプロイの作業中は Quality Center を使用できません。

第 11 章

JBoss のヒープ・メモリ・サイズおよびポートの変更

Quality Center のアクティブなプロジェクト数やコンカレント・ユーザ・セッション数に変化があった場合は、Quality Center のインストール後に JBoss アプリケーション・サーバのヒープ・メモリの値を変更できます。また、JBoss 標準設定のポート番号を変更することもできます。

本章の内容

- ▶ JBoss のヒープ・メモリ・サイズの変更（128 ページ）
- ▶ JBoss のポート番号の変更（131 ページ）

注：本章の内容の最新情報については、JBoss のヒープ・サイズの変更に関しては HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM194705 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM194705>) を、JBoss のポート番号の変更に関しては記事 KM189925 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM189925>) を参照してください。

JBoss のヒープ・メモリ・サイズの変更

Quality Center のインストール作業時にアプリケーション・サーバとして JBoss を選択すると、JBoss サーバの使用するメモリ・ヒープの値を指定できます。標準設定の値（1024～1536 MB）をそのまま使用することもできます。

場合によっては、Quality Center のインストール後に JBoss のヒープ・メモリの値の変更が必要になります。たとえば、Quality Center のアクティブなプロジェクト数やコンカレント・ユーザ・セッション数が増加した場合、JBoss のヒープ・サイズを大きくしなければならないことがあります。

注：最大メモリ（RAM）サイズを超える JBoss ヒープ・サイズを設定することはできません。

本項の内容

- ▶ JBoss のヒープ・サイズの変更（Windows）（128 ページ）
- ▶ JBoss のヒープ・サイズの変更（Solaris, Linux, AIX および HP-UX）（130 ページ）

JBoss のヒープ・サイズの変更（Windows）

Windows サーバ・マシンの場合、JBoss のヒープ・メモリ・サイズを変更するには、Quality Center サービスをアンインストールし、**InstallJbossService.bat** ファイル内のヒープ・サイズの設定に変更を加えてから、Quality Center サービスを再インストールします。また、サービスと同じ設定になるように **run.bat** ファイルを変更する必要があります。

Windows で JBoss のヒープ・メモリ・サイズを変更するには、次の手順を実行します。

- 1 すべてのユーザが Quality Center プロジェクトからログアウトしていることを確認し、Quality Center サービスを停止します。
- 2 コマンド・プロンプトを開き、< **QC インストール・パス** > **¥jboss¥bin** フォルダに移動します。標準設定では、Quality Center のインストール・パスは **C:¥Program Files¥HP¥Quality Center** です。

- 3 次のコマンドを実行して、既存のサービスをアンインストールします。

```
InstallJbossService.bat -uninstall
```

- 4 次の手順を実行して、ヒープ・サイズを変更します。

- a **InstallJbossService.bat** ファイルを開き、必要に応じてヒープ・サイズのパラメータを変更します。たとえば、次のように、現在ヒープ・メモリが 128 MB ~ 1024 MB に設定されているとします。

```
set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Xms128m -Xmx1024m
```

これを 128 MB ~ 1536 MB にするには、次のように変更します。

```
set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Xms128m -Xmx1536m
```

- b **InstallJbossService.bat** ファイルを保存して閉じます。

- 5 次の手順を実行して、変更後のヒープ・サイズ・パラメータを反映したサービスを再インストールします。

- a 次のコマンドを実行します。

```
InstallJbossService.bat -install
```

- b **[スタート]** メニューから、**[コントロール パネル]** > **[管理ツール]** > **[サービス]** を選択し、サービスがインストールされたことを確認します。

- c **HP Quality Center** サービスを起動します。

- d 指定したヒープ・サイズがメモリの総量として表示されているか確認します。Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

```
http:// < Quality Center サーバ名 > : < ポート番号 > /qcbn/debug
```

注： クラスタ・ノードを対象として作業する場合、Quality Center サーバ名にはノード・マシン名を指定し、上記の手順を各ノードで実行する必要があります。

6 次の手順を実行して、**run.bat** ファイルを変更します。

- a < **QC インストール・パス** > **¥jboss¥bin** フォルダに移動します。
- b **InstallJbossService.bat** ファイルに対して行ったヒープ・サイズの変更に合わせて、**run.bat** ファイル内のヒープ・サイズ設定も変更します。
- c **run.bat** ファイルを保存して閉じます。

JBoss のヒープ・サイズの変更 (Solaris, Linux, AIX および HP-UX)

Solaris, Linux, AIX または HP-UX サーバ・マシンの場合、JBoss のヒープ・メモリ・サイズ設定を変更するには、**run.sh** ファイルに変更を加えます。

Solaris, Linux, AIX または HP-UX で JBoss のヒープ・メモリ・サイズを変更するには、次の手順を実行します。

1 **\$JBOSS_HOME/bin** ディレクトリに移動します。

2 次の手順を実行して、ヒープ・サイズを変更します。

- a **run.sh** ファイルを開き、必要に応じてヒープ・サイズのパラメータを変更します。たとえば、次のように、現在ヒープ・メモリが 128 MB ~ 1024 MB に設定されているとします。

```
set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Xms128m -Xmx1024m
```

これを 128 MB ~ 1536 MB にするには、次のように変更します。

```
set JAVA_OPTS=%JAVA_OPTS% -Xms128m -Xmx1536m
```

- b **run.sh** ファイルを保存して閉じます。

3 すべてのユーザが Quality Center プロジェクトからログアウトしていることを確認し、次のコマンドを実行して Quality Center サービスを停止します。

- a **run.sh -stop**
- b **run ps -ef | grep java** (JBoss サーバの停止を確認するため)
- c **run.sh -start**

- 4 指定したヒープ・サイズがメモリの総量として表示されているか確認します。Web ブラウザを開き、次の URL を入力します。

http:// < Quality Center サーバ名 > : < ポート番号 > /qcbn/debug

注： クラスタ・ノードを対象として作業する場合、Quality Center サーバ名にはノード・マシン名を指定し、上記の手順を各ノードで実行する必要があります。

JBoss のポート番号の変更

JBoss アプリケーション・サーバのポート番号が予約済みまたは使用中になっていた場合など、Quality Center のインストール後にポート番号を変更しなければならないことがあります。標準設定のポートは 8080 です。ポートを変更するには、**server.xml** ファイル内のポート番号の設定に変更を加えます。

アプリケーション・サーバおよび Web サーバとして JBoss を使用する場合、ポート番号は共有されるため、アプリケーション・サーバのポート番号のみ変更すれば済みます。マシンに IIS Web サーバがインストールされている場合は、IIS Web サーバのポート番号も変更する必要があります。

JBoss アプリケーション・サーバのポート番号を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 **server.xml** ファイル内のポート番号の設定に変更を加えます。
 - a < QC インストール・パス > %jboss%server%default%deploy%jbossweb-tomcat5.sar に移動し、テキスト・エディタで **server.xml** ファイルを開きます。
 - b ポート番号に変更を加えます。たとえば、Connector port="8080" という記述を Connector port="8081" のようにします。
- 2 JBoss アプリケーション・サーバを停止します。JBoss の起動および停止の詳細については、110 ページ「Quality Center サービスの開始と停止」を参照してください。
- 3 JBoss を再起動します。
- 4 新しいポート番号で Quality Center にログインします。

IIS Web サーバのポート番号を変更するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] メニューから [管理ツール] プログラム・グループを開き、[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] をクリックします。[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャ] ウィンドウが開きます。
- 2 左側の表示枠でツリーを展開し、[既定の Web サイト] を右クリックして [停止] を選択することにより、既定の Web サイトを停止します。このサービスが「(停止)」と表示されます。
- 3 [既定の Web サイト] を右クリックして [プロパティ] を選択します。
- 4 [Web サイト] タブをクリックし、[TCP ポート] ボックスでポート番号を変更して、[OK] をクリックします。
- 5 既定の Web サイトを再起動するために、[既定の Web サイト] を右クリックして [開始] を選択します。
- 6 Quality Center を開き、Quality Center URL に新しいポート番号を入力します (http:// < Quality Center サーバ名 > : < ポート番号 > /qcbn)。
たとえば、サーバ Lab1 のポートを 8080 から 8081 にする場合は「http://Lab1:8081/qcbn」と入力します。

第 12 章

Quality Center のアンインストール

Quality Center は、サーバ・マシンからアンインストールできます。Quality Center をアンインストールしても、プロジェクトは削除されません。また、Quality Center へのアクセスに使用したワークステーションからも Quality Center コンポーネントをアンインストールできます。

本章の内容

- ▶ Windows からの Quality Center のアンインストール (133 ページ)
- ▶ その他のプラットフォームからの Quality Center のアンインストール (134 ページ)
- ▶ ワークステーションからの Quality Center コンポーネントのアンインストール (135 ページ)

Windows からの Quality Center のアンインストール

本項では、Windows サーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法を説明します。

Windows から Quality Center をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 アプリケーション・サーバが起動していることを確認します。
- 2 HP Quality Center アンインストール・ウィザードの起動は、次の手順で行います。
 - ▶ [スタート] > [コントロール パネル] > [アプリケーションの追加と削除] を選択し、[HP Quality Center] を選択して [変更と削除] ボタンをクリックします。画面に表示される指示に従います。

- ▶ Quality Center のホーム・ディレクトリ ([<ドライブ>]:\¥HP¥Quality Center) へ移動します。 **_uninst** サブディレクトリで、 **uninstall.exe** をダブルクリックします。

3 [次へ] をクリックします。画面に表示される指示に従います。

その他のプラットフォームからの Quality Center のアンインストール

本項では、Linux, Solaris, AIX または HP-UX のサーバ・マシンから Quality Center をアンインストールする方法を説明します。

注： Quality Center のアンインストールは、Quality Center をインストールしたユーザと同じユーザで実行する必要があります。

Linux, Solaris, AIX または HP-UX から Quality Center をアンインストールするには、次の手順を実行します。

- 1 アプリケーション・サーバが起動していることを確認します。
- 2 システム・プロンプトに対して次のコマンドを入力します。

```
/ <ディレクトリ> / < Quality Center のディレクトリ > /_uninst/uninstall.bin
```

HP Quality Center アンインストール・ウィザードが起動します。

3 [次へ] をクリックします。画面に表示される指示に従います。

ワークステーションからの Quality Center コンポーネントのアンインストール

クライアント・コンピュータで Quality Center を実行すると、クライアント・コンポーネントがワークステーションにダウンロードされます。クライアント・アンインストール・ユーティリティを使用すると、ファイルおよびレジストリ・キーを含むすべての Quality Center クライアント・コンポーネントを削除できます。このユーティリティをダウンロードするには、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM176290

(<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM176290>) を参照してください。

ユーティリティの実行後にワークステーションを Quality Center へのアクセスに使用した場合、必要なすべてのコンポーネントが Quality Center サーバからダウンロードされます。

付録 A

Quality Center のインストールに関する トラブルシューティング

本章では、Quality Center のインストールに関連する問題のトラブルシューティングに役立つヒントを示します。

本章の内容

- ▶ 検証の無効化（138 ページ）
- ▶ インストール・ログ・ファイルの確認（139 ページ）
- ▶ Quality Center がすでにインストールされていると表示される場合（140 ページ）
- ▶ データベースの検証に失敗する場合（140 ページ）
- ▶ IIS サイトからの応答がない場合（142 ページ）
- ▶ JBoss が起動しない場合（143 ページ）
- ▶ 以前のインストールに設定していたパラメータが使用される場合（145 ページ）

検証の無効化

Quality Center インストーラによるインストール作業時には、特定のインストール要件が満たされているか確認するための検証が自動的に実行されます。検証が失敗する場合は、インストーラ・コマンドの引数を追加してインストーラのチェックを無効にできます。検証の無効化は、誤った検証結果が出ることを確認した場合にのみ使用してください。

たとえば、インストール・フォルダがアクセス可能であることと、ユーザに読み書き権限があることを確認するインストール場所についての検証を無効にするには、「`setup.exe -W installLocationValidator.active=false`」と入力します。

無効化できる検証項目を次に示します。

検証	チェック内容	無効化の方法
既存のインストール	サーバに Quality Center がすでにインストールされているかどうか。トラブルシューティングのヒントについては、140 ページ「Quality Center がすでにインストールされていると表示される場合」を参照してください。	-W handleExistingInstallationSequence. active=false
オペレーティング・システムおよびライセンス	提供されたライセンスで当該 OS がサポートされているかどうか。	-W licenseAndOSValidatorSequence. active=false
メール・サーバ	メール・サーバ名が有効かどうか。	-W mailServerValidator.active=false
データベース・パラメータ	データベースのバージョンとシステム・ユーザの権限。トラブルシューティングのヒントについては、140 ページ「データベースの検証に失敗する場合」を参照してください。	-W dbValidatorSequence.active=false

検証	チェック内容	無効化の方法
データベースの有無	TD ユーザが既存データベース・スキーマの表を所有しているかどうか。	-W dbExistsValidator.active=false
リポジトリ・フォルダ	リポジトリ・フォルダがアクセス可能であるか、および、ユーザがリポジトリ・フォルダに対する読み書き権限を持っているかどうか。	-W repositoryValidator.active=false
インストール場所	インストール・フォルダがアクセス可能であるか、および、ユーザがインストール・フォルダに対する読み書き権限を持っているかどうか。	-W installLocationValidator.active=false

インストール・ログ・ファイルの確認

Quality Center のインストール作業で問題が発生した場合は、次のログ・ファイルでエラーを確認します。

ログ	パス
InstallShield ログ	%TEMP%\%Mercury%\HP_Quality_Center. <ログ作成日>.install.html
InstallShield 第2 ログ	%TEMP%\%Mercury%\HP_Quality_Center. <ログ作成日>.install.is.log
スキーマ作成ログ	< Quality Center インストール・フォルダ> %log%sa
スキーマ作成の第2 ログ	< Quality Center インストール・フォルダ> %InstallInfo%log
JBoss サーバ・ログ	< Quality Center インストール・フォルダ> %jboss%server%default%log%process.log

Quality Center がすでにインストールされていると表示される場合

インストール時、当該コンピュータに Quality Center がすでにインストールされている旨のメッセージが表示される場合は、Quality Center がインストールされていないことと、以前にインストールされていた形跡が残っていないことを確認します。

Quality Center がインストールされていないことを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 [スタート] メニューから、[コントロール パネル] > [プログラムの追加と削除] を選択します。
- 2 プログラムの一覧に [Mercury Quality Center] または [HP Quality Center] が含まれているか確認します。
- 3 いずれかが存在する場合は、[削除] をクリックし、画面に表示される指示に従って操作します。
- 4 Quality Center をアンインストールした後は、< Quality Center ホーム > **¥application** ディレクトリが削除されていることを確認してください。残っている場合は、Quality Center をインストールする前にこのディレクトリを削除してください。

以前に Quality Center がインストールされていた形跡を削除するには、次の手順を実行します。

- 1 システム・ルート・ディレクトリ (%systemroot%) に移動します (Linux, Solaris, AIX または HP-UX の場合は、/home ディレクトリに移動します)。
- 2 **vpd.properties** ファイルのバックアップを作成します。
- 3 テキスト・エディタで **vpd.properties** ファイルを開き、Quality Center に関する行をすべて削除します。

データベースの検証に失敗する場合

Quality Center のインストール中に、データベースの検証が失敗した場合は、以下の点検を行ってください。

- ▶ 入力パラメータが正しいこと。
- ▶ サイト管理スキーマ名が指定されていること。

- ▶ Microsoft SQL Server サイト・スキーマをアップグレードしている場合は、以前のインストール時と同じ認証タイプが使用されたかどうか。

パラメータが正しいことを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 インストール中に表示されるエラー・メッセージを参照し、原因の根本から問題の把握と解決を試みます。
- 2 メッセージから問題の内容を把握できない場合は、データベース管理者に問い合わせます。
- 3 エラーが見つからず、パラメータも正確であるとわかっている場合は、138 ページ「検証の無効化」で説明されている方法で DB パラメータの検証を無効にします。

サイト管理スキーマ名が設定されているか確認するには、次の手順を実行します。

- 1 データベース・クエリ用のツールを開きます。
- 2 スキーマ内に **PROJECTS** 表が存在することを確認します。これはサイト管理スキーマ内にも存在する表であり、プロジェクト・スキーマ内にはありません。

以前のインストールにおける SQL 認証の種類を確認するには、次の手順を実行します (SQL Server サイト・スキーマをアップグレードする場合)。

- 1 Quality Center のホーム・ディレクトリに移動し、**¥application** フォルダを開きます。標準設定では、ホーム・ディレクトリは **C:¥Program Files¥HP¥Quality Center** (Windows) または **/opt/HP/QualityCenter** (Solaris, Linux, AIX および HP-UX) です。
- 2 **qcbn.war** の内容を一時ファイルに展開し、テキスト・エディタで **siteadmin.xml** ファイルを開きます。
- 3 「native」プロパティを検索します。このプロパティの値が「Y」に設定されている場合は、Windows 認証が使用されます。新しいインストールでは、以前のインストールと同じ認証の種類 (Microsoft SQL Server 認証または Windows 認証) を使用する必要があります。

IIS サイトからの応答がない場合

IIS Web サーバを使用していて、IIS サイトからの応答がないと表示される場合は、JBoss が動作していることと、IIS が正常に構成されているかどうかを確認します。

JBoss が動作中かどうか確認するには、次の手順を実行します。

- 1 マシンが低速で JBoss と IIS の動作が鈍い場合のために、20 分ほど待ちます。
- 2 Web ブラウザを開き、JBoss の URL を入力します。標準設定のアドレスは `http://localhost:8080/qcbin` です。
- 3 Quality Center の [ようこそ] ページが開くことを確認します。

「ようこそ」ページが表示されれば、問題は IIS の側にあります。

「ようこそ」ページが表示されなければ、問題は JBoss の側にあります。
143 ページ「JBoss が起動しない場合」に示す手順に従ってください。

IIS の構成を確認するには、次の手順を実行します。

- 1 IIS マネージャを開きます（[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、「inetmgr」を入力）。
- 2 インストール中に選択した Web サイトを選択します。インストール時に使用される標準設定の Web サイトは [既定の Web サイト] です。IIS Web サイトの選択に関する詳細については、71 ページの手順 16 を参照してください。
- 3 この Web サイトに、**quality_center** というフォルダが含まれるか確認します。**quality_center** フォルダがない場合は、もう一度 Quality Center をインストールする必要があります。
- 4 [既定の Web サイト] ディレクトリを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 5 [ISAPI フィルタ] タブをクリックし、フィルタの 1 つとして **quality_center** フォルダが表示されることと、このフィルタに緑の矢印が表示されることを確認します。フィルタが有効になっていない場合は、もう一度 Quality Center をインストールします。
- 6 IIS 6.0 の場合は、[Web サービス拡張] フォルダをクリックして、**QC** 拡張が存在し許可されていることを確認します。

QC 拡張が許可されていない場合は、[QC] を選択し、[許可] をクリックします。

QC 拡張が存在しない場合は、**[すべての不明な ISAPI 拡張]** を選択し、**[許可]** をクリックします。

JBoss が起動しない場合

JBoss アプリケーション・サーバを使用していて、JBoss が起動しないというメッセージが表示される場合は、次の点検を行ってください。

- ▶ JBoss が動作していること。
- ▶ JBoss サービス・ユーザ。
- ▶ JBoss スクリプト・エラーがないこと。
- ▶ IIS が正常に設定されていること。

JBoss が動作することを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 マシンが低速で JBoss と IIS の動作が鈍い場合のために、20 分ほど待ちます。
- 2 Web ブラウザを開き、JBoss の URL を入力します。標準設定のアドレスは `http://localhost:8080/qcbin` です。
- 3 Quality Center の **[ようこそ]** ページが開くことを確認します。

「ようこそ」ページが表示されれば、問題は IIS の側にあります。

「ようこそ」ページが表示されなければ、問題は JBoss の側にあります。前出の JBoss トラブルシューティング・オプションを確認してください。

JBoss サービス・ユーザを確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **[サービス]** コントロール・パネルを開きます (**[スタート]** メニューから **[ファイル名を指定して実行]** を選択し、「services.msc」と入力)。
- 2 **[HP Quality Center]** サービスを右クリックし、**[プロパティ]** をクリックします。
- 3 **[ログオン]** タブをクリックします。
- 4 ユーザ情報を入力し、サービスを再起動します。

JBoss スクリプトにエラーがないか確認するには、次の手順を実行します。

- 1 JBoss を手動で実行します。コマンド・ウィンドウを開きます (**[スタート]** メニューから **[ファイル名を指定して実行]** を選択し、「cmd」を入力)。

- 2 < **Quality Center インストール・フォルダ** > /jboss/bin に移動します。
- 3 **run.bat** を実行します。
- 4 何らかのエラーが発生するかどうかを確認します。

IIS の構成を確認するには、次の手順を実行します。

- 1 IIS マネージャを開きます（[スタート] メニューから [ファイル名を指定して実行] を選択し、「inetmgr」を入力）。
- 2 インストーラで指定した Web サイトを選択します（標準では、[既定の Web サイト]）。
- 3 この Web サイトに、**quality_center** というフォルダが含まれるか確認します。**quality_center** フォルダがない場合は、もう一度 Quality Center をインストールする必要があります。
- 4 [既定の Web サイト] ディレクトリを右クリックし、[プロパティ] をクリックします。
- 5 [ISAPI フィルタ] タブをクリックし、フィルタの 1 つとして **quality_center** フォルダが表示されることと、このフィルタに緑の矢印が表示されることを確認します。フィルタが有効になっていない場合は、もう一度 Quality Center をインストールします。
- 6 IIS 6.0 の場合は、[Web サービス拡張] タブをクリックして、**QC** 拡張が存在し許可されていることを確認します。

QC 拡張が許可されていない場合は、[QC] を選択し、[許可] をクリックします。

QC 拡張が存在しない場合は、[すべての不明な ISAPI 拡張] を選択し、[許可] をクリックします。

以前のインストールに設定していたパラメータが使用される場合

UNIX タイプのオペレーティング・システムへのインストールで、以前のインストールに使用していたパラメータがインストール作業中に使用される場合は、インストーラが **/tmp/HP** フォルダおよびその中のファイルにアクセスできていません。現在のインストールが **/tmp** フォルダ内のファイルを上書きできないと、誤ったパラメータが使用されます。

権限を確認するには、次の手順を実行します。

- 1 **/tmp** フォルダに移動して **ls -l** を実行し、インストーラが **tmp/HP** への書き込みを実行できているか確認します。
- 2 **/tmp/HP** フォルダに移動して **ls -l** をもう一度実行し、このフォルダ内にあるファイルのアクセス権と所有者を確認します。

